

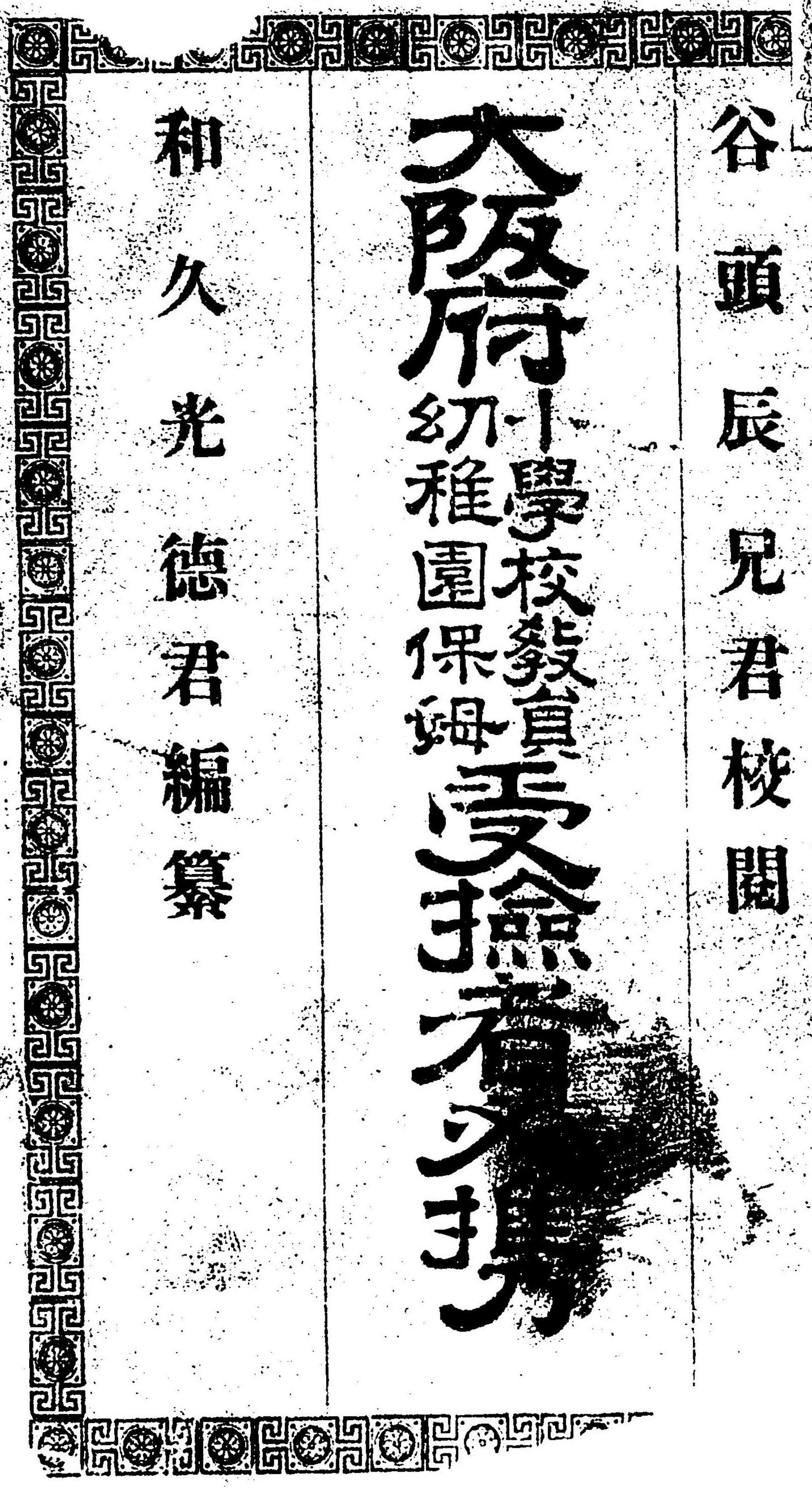
14

保田貞則君校閱

谷頭辰兄君校閱

大阪府小学校教員受檢者名簿

和久光德君編纂



久保田貞則君校閱  
谷頭辰兄君校閱

大阪府小学校教員幼稚園保母実録著文集

和久光徳君編纂

大阪府受験者必携

例言

一本書ハ小學校教員甲種及乙種檢定并幼稚園保姆助手等ノ試験ヲ請フモノ、參考ニ供センカ爲メ

編纂シタルモノニシテ小學校教員檢定規則ヲ主

トシテ保姆助手等ノ免許規則ヲ以テス

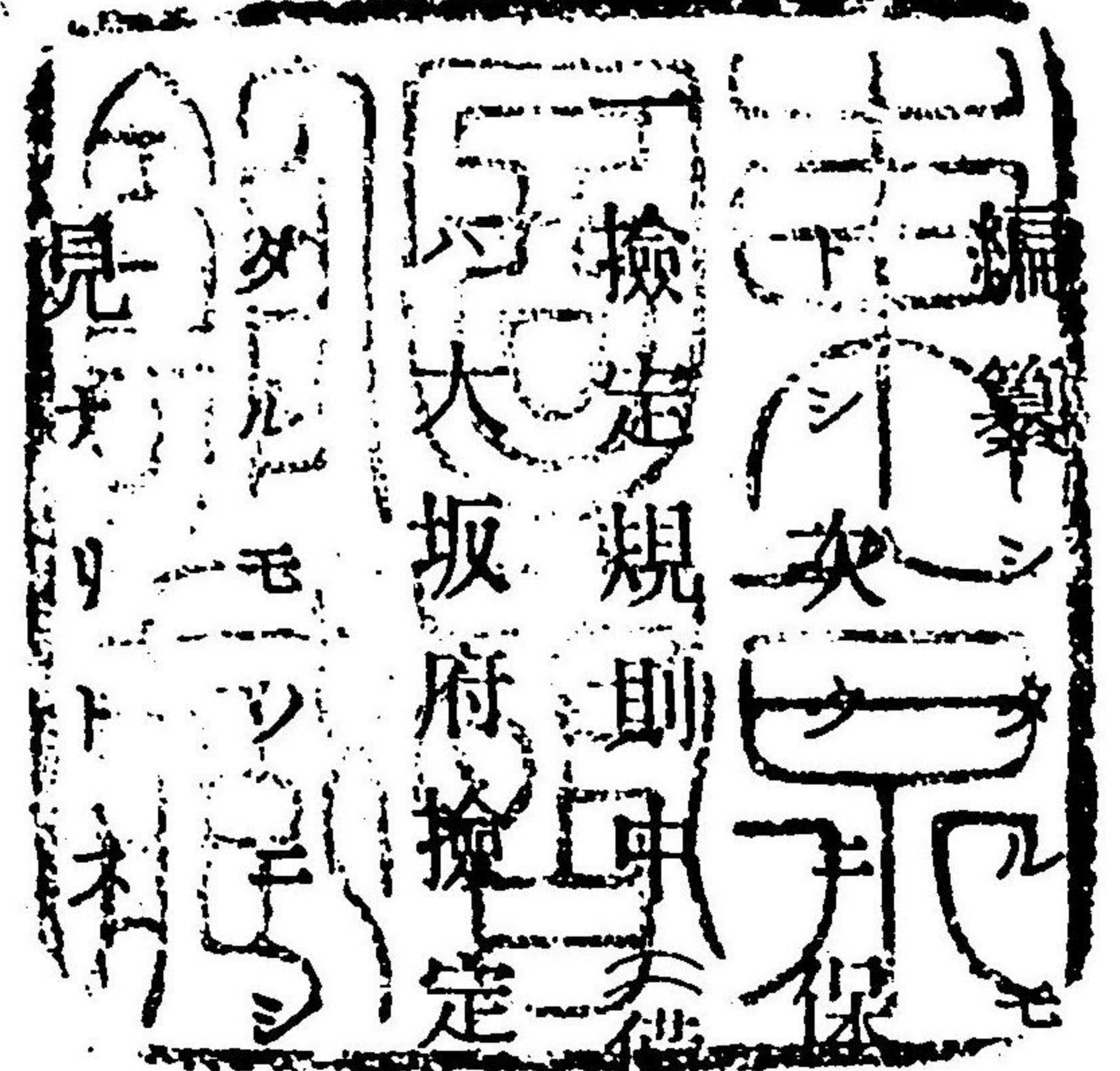
檢定規則申(備考)トシテ掲ケタルハ小學校令又

大阪府檢定細則若クハ本則ノ説明等ヲ摘記シ

テ(注意)トシテ掲ケタルハ編者ノ管

一檢定規則ノ説明及大阪府檢定細則ハ檢定規則中

各條ニ挿入セシモ尙其全文ヲ知ラシメシカ爲メ



本書中更ニ之ヲ掲ゲテ閱覽ニ便ニス  
 一本書ハ可成檢定ニ關スル總テノ事項ヲ蒐集シテ  
 受験者ニ便宜ヲ與ヘンコトヲ欲シ更ニ雜ノ一欸ヲ  
 加ヘテ大坂府令及尋常師範學校學科程度若クハ  
 課程表等其他必要ナル事項ヲ掲ク是編者ノ微意  
 ナリ

明治廿七年二月

編者識

受檢者必携目次

大阪府小學校教員  
幼稚園保母受檢者必携目次

- 第一款 文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則并說明  
 ..... 一丁
- 第二款 大阪府令第三十四號小學校教員檢定等ニ關スル細則等  
 ..... 五八丁
- 第三款 大阪府令第十六號幼稚園保育科保母免許規則  
 ..... 七三丁
- 第四款 大阪府令第十七號幼稚園保育科助手免許規則  
 ..... 八一丁
- 第五款 雜  
 ..... 八六丁
- 大阪府令第三十八號檢定願書等經由ノ件  
 ..... 八五丁
- 大阪府訓令第三十三號區長與印等ノ件  
 ..... 八六丁
- 文部省令第八號尋常師範學校學科程度及課程表  
 ..... 八六丁

目次

一

受 檢 者 必 携 目 次

大阪高等女學校附屬保姆養成科學科課程表……一二五丁  
 大阪府訓令第八十一號保姆助手見習生ヲ置クノ件……  
 ……一二七丁  
 受験者ノ講究スヘキ書目……  
 ……一二八丁  
 明治二十六年七月施行檢定問題……  
 ……一三一丁

受 檢 者 必 携

大阪府小學校教員  
幼稚園保姆受檢者必携

和久光徳 編



○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

文部省令第十九號 (明治二十四年十一月十七日)

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第五十五條ニ基キ小學校  
 教員檢定等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

(備考)

○小學校令第五十五條 小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格  
 スルコトヲ要ス

檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小  
 學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

## 受 檢 者 必 携

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受験者ノ資格教員免許狀候補者ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

小學校教員檢定等ニ關スル規則

(備考)

◎小學校教員ノ資格ニ就テハ明治五年學制頒布以來多少其規定ナキニアラサリシモ明治十四年小學校教員免許狀授與方心得ヲ定メ地方長官ヲシテ其規則ヲ設ケシメシニ至リ粗其制備ハリシカ如シ然レトモ當時尙師範學校ノ卒業證書ト師範學校卒業生ニ非サルモノニ與フル小學校教員免許狀トハ互ニ而立シテ各其用ヲ爲スモノナリシヲ明治十九年ニ至リテ小學校教員免許規則ヲ定メ凡小學校教員タル者ハ其師範學校卒業生タルト否トヲ問ハス又訓導タルト授業生タルトヲ論セス一般ニ免許狀ヲ有セサルヘ

## 受 檢 者 必 携

カラサルモノトナシタルヲ以テ其資格ノ制始メテ統一ノモノトナレリ然リト雖其檢定試験ノ方法實際ニ適合セサルモノ多キカ爲メ適良ナル正教員ヲ増加スルノ方法ヲ求ムルコト極メテ難カリキ今ヤ小學校令ノ改正ニ依リ本則ヲ發布シテ之ヲ舊制ニ代フルニ至リタリ本則ニ於テハ小學校令ノ旨趣ニ基キ檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員ノ免許狀教員候補者等ニ關スル件ヲ網羅シ舊則ニ於ケル諸ノ事項ヲ取捨折衷シテ徒ニ學力ノミニ拘ハラズ實際經驗アリテ其効績著キモノ、如キハ學力ヲ試験セス便宜檢定シテ免許狀ヲ與フルヲ得ルノ途ヲ開キ地方官ヲシテ實際ノ情勢ヲ考ヘ充分ニ運用スルヲ得シムルノ餘地ヲ存スルト同時ニ僥倖濫授ノ弊ヲ生セサシメンコトヲ期スルモノナリ(説明書)

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

(注 意)

○本則ハ明治廿四年十一月十七日文部省訓令第五号ヲ以テ示サレタル普通教育施設ニ關スル文部大臣ノ意見第三項ヨリ第十項マテ即チ七大要旨中第一ノ要旨ナル教育ノ旨趣ヲ着實善良ナラシムル事ト及第十一項第十二項即チ七大要旨中第四ナル教員ノ改良増加ヲ圖ル事トニ淵源シタルモノナレハ該訓令ノ旨趣ヲ体認セサルベカラス

第一章 府縣ニ於ケル檢定等

第一條 小學校教員檢定委員ハ府縣官吏並尋常師範學校長及教員ヲ以テ組織シ府縣知事之ヲ命スヘシ  
府縣知事ハ檢定委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

(備 考)

受 檢 者 必 携

◎檢定委員ノ數ノ如キハ時ノ必要ニ應シテ之ヲ定ムヘシト雖モ甲種檢定即チ學力試験ニ依ラス單ニ從來ノ資格等ニ依リテ認定スルモノ、如キハ其時期ヲ一定シ難カルヘキカ故ニ或ハ常設ノ委員ヲ置クノ必要有ラン(説明書)

(注 意)

○檢定委員ハ地方ノ便宜ニ依リ甲種檢定委員或ハ乙種檢定委員等ノ別ヲナシ任命スルコトアルヘシ即チ甲種ハ常設ニシテ乙種ハ臨時ナリトス其員數ハ府縣ノ適宜ト知ルヘシ

第二條 小學校教員檢定委員ハ此規則ニ依リ檢定ヲ行ヒ委員長ヨリ其成績ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第三條 府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ相當ノ免許狀ヲ授與スヘシ但第七條第七款ニ該當スル者ニ正教員免許狀ヲ授

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

## 受 檢 者 必 携

與スル場合ニハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

(備考)

◎第三條ニ所謂相當ノ免許狀トハ受験者ノ資格及檢定ノ成績ニ依リ高等小學校、尋常小學校本科、專科及正教員、准教員等ノ別ニ相當セルモノヲ謂フ其但書ハ事特例ニ係ルヲ以テ其手續ヲ重クセルナリ故ニ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經ルニハ本人ノ品行學力等ハ勿論其成績及名望ノ如何等ニ至ル迄公平ニシテ詳細ナル事由ヲ証明センコト必要ナリ(説明書)

第四條

正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

- 一 准教員ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス
- 二 年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上

## 受 檢 者 必 携

三 身體健全

四 品行方正

(備考)

◎抑モ正教員ハ全ク獨立シテ兒童ノ教育ニ任セサルヘカラサルノ責アリ然ルニ夫ノ父兄ノ信用ヲ得テ其兒童ヲ教授訓育スル事ノ如キハ只學問授業等ノ方式ノミニ通シタルモノ、能クスヘキ所ニアラス必スヤ實地相應ノ經驗熟練ヲ要スヘキナリ故ニ師範學校ノ卒業生等ト雖モ一般ニ初メヨリ直ニ正教員ノ檢定ヲ請フヘキ資格ヲ具ヘサルコト明カナリ(説明書)

(注意)

○本條第一款ニ於テ一度准教員ト爲リ一ケ年以上公立小學校ニ在職シタルモノニアラサレハ正教員ノ試験ヲ受クルコト能ハサル

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等



受 檢 者 必 携

旨ヲ示サレタルカ故ニ譬ヘ師範學校ノ卒業生ト雖モ卒業ノ當時  
ハ一度准教員トナリ漸次經驗熟練ヲ積ムニ從ヒ進ンテ正教員ニ  
昇ルノ階段ヲ造ラレタルモノニシテ卒業生ニ在リテハ一時不滿  
足ナルノ嫌ナキニアラサルモ結局町村ト双方ノ利益ナルベシ左  
レモ師範學校ニ入學前嘗テ此經歷アリシモノハ本條ニ依ルノ限  
ニアラサルヘシ而シテ此准教員ノ免許狀トアル中ニハ従前ノ授  
業生免許狀ノ如キモノヲモ包含セルモノト見テ差支ナカルヘシ  
其一ケ年以上公立小學校ノ教員ノ職ニ有ルコト、ハ他府縣ニ在  
職セシ年數ヲモ包含セルコト勿論ナリトス又但書ノ旨趣ハ本則  
第七條ニ依リ學力品行等ニ關シ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認め  
タル者ハ准教員ノ免許狀ヲ有セス又一ケ年以上准教員ノ職ニ在  
ラサルモ檢定ヲ請フヘキ資格アルコトヲ示シタルナリ

受 檢 者 必 携

第五條 准教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ十七年以上女子ハ十五年以上

二 身體健全

三 品行方正

第六條 檢定ハ之ヲ別チテ左ノ二種トス

甲 種 認 定

乙 種 試 驗

(注 意)

○本條ハ檢定ノ種類ヲ定メラレタルモノニシテ正教員ト准教員ト  
ヲ問ハス此二種ノ内一ノ檢定ハ必ス通過セサルヘカラサルモノ  
ト知ルヘシ

第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ掲クル者ニ限り之ヲ行フモノトシ第九條

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

- 乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ヲ参照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス
- 一 高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生
  - 二 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタルモノ
  - 三 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生
  - 四 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
  - 五 従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ受得シタル者
  - 六 准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有効期限滿チタル者
  - 七 其他學力品行等ニ關シ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

(備考)

十

受 檢 者 必 携

◎第七條ニ依リ甲種ノ檢定ヲ行フニ就キテハ第一款乃至第七款ニ掲クル者ノ中ニハ其學力及經歷等固ヨリ異同アルヲ以テ本科正教員本科准教員又ハ專科正教員專科教員等各種ノ免許狀ヲ授與スルノ結果アルヘキコト勿論ナリ其第五款ニ掲クル者ハ其現ニ在職スル者ト否トナ問ハス又有効年限ノ經過シタルモノト否トナ論セス專ラ品行學力及經歷等ニ就キ其適不適ヲ認ムヘキナリ若シ夫レ此輩中一ケ年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシ者ニ至リテハ無論第四條第一款ニ該當スルモノト知ルヘシ其第六款ハ本則施行以後ノ者ニ關スルコト勿論トス(説明書)

(注意)

○本條ニ依ルトキハ師範學校卒業生モ自ラ檢定ヲ請ハサルヘカラスルカ如クナレハ是ハ別段其手續ヲ要セス直ニ認定シテ准教員

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

十一

受 檢 者 必 携

ノ免許狀ヲ與ヘラル、ナリ  
第五款ニ従前ノ成規ニ依リ云々トアリ此中ニハ授業生及教員仮  
免許狀ヲモ含ムモノト知ルベシ  
第七款ハ本人自ラ之ニ該當スルモノトシテ出願スルハ如何アル  
ヘキカ要スルニ市町村長若クハ郡長ノ申請ニ基キ詮議セラルハ  
キモノナルベシ  
元來甲種檢定ナルモノハ本條各款ニ掲クルモノニ限り本則第九  
條乃至第十二條ニ參照シテ受験者ノ學力ト其既往ニ於ケル經歷  
トヲ調査シ其合格不合格ヲ認定スルモノナルカ故ニ一定ノ標準  
等ハ素ヨリ之アルヘキ筈ナク又仮令内規アルモ公示セラル、カ  
如キコトハ勿ルヘシ然レモ明治十九年文部省令第十三號及第二  
十三號ハ各府縣ニ於テ依ルヘキ標準ノ根據トナルニ近カランカ

受 檢 者 必 携

今之ヲ左ニ掲ケテ以テ參照ニ供セントス  
△文部省令第十三號 (明治十九年六月廿一日)  
文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前ニ於テ授與シタル  
小學校教員免許狀ハ従前ノ通有効ノモノトス  
但小學校初等科ノ免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科  
免許狀ヲ有スルモノハ尋常小學校以下小學高等科免許狀ヲ有  
スルモノハ高等小學校以下ノ教員タルヲ得  
△文部省令第二十三號 (明治十九年十二月廿三日)  
文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前東京師範學校及府  
縣立師範學校ニ於テ授與シタル小學師範學科卒業證書ハ其有効  
ノ年限間小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトス  
但初等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ尋常小學校以下中等  
○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携

及高等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ高等小學校以下ノ教員タルヲ得

今此二省令ニ依リ免許狀ナルモノヲ卒業證書ト比較スルトキハ少ク徑庭アリ即チ初等師範學科卒業證書ニシテ僅ニ尋常小學校以下ノ教員タル資格ヲ得ヘシトスレハ之レニ次ク所ノ小學簡易科若クハ初等科免許狀ノ如キハ到底尋常小學校本科正教員タルノ資格ヲ得ルコト難カルヘキ道理ナリ其高等科免許狀ニ於ケルモ亦然ルナランカ

又高等若クハ尋常小學校仮免許狀ナルモノハ明治廿年四月文部省令第七号ニ依リ便宜檢定シテ授與セラレタルモノナレハ是等ハ其免許狀ト同等ノ資格ヲ與ヘラル、コトハ難カルヘシ然レモ其免許狀ニ次ク所ノモノ即チ准教員タルノ資格ニ於テハ難キコ

受 檢 者 必 携

トナカルヘキカ但小學校補助員若クハ授業生免許狀ヲ有スルモノ、如キハ尋常小學校本科准教員ノ資格ヲ得ラルヘキモノナラシキモ亦之ニ準シテ認定セララル、コトナルヘシ

以上ノ如ク思考スレバ只愛ニ一ノ血路ト恃ムヘキハ説明書ニモアル如ク徒ラニ學力ノミニ拘ハラス實際經驗アリテ其効績著キモノ、如キハ學力ヲ試験セス便宜檢定シテ免許狀ヲ與フルヲ得ルノ途ヲ開キ云々トアルヲ以テ強チ既往ニ於テ受得シタル卒業證書又ハ免許狀ノ如何ニ關セス十五年又ハ二十年等數年間教育上ニ經驗アリ効績著キモノハ此点ニ就キ相當ノ免許狀ヲ與ヘラル、コトアルモノト知ルヘシ

第八條 乙種ノ檢定ハ學力試験ヲ行フモノトス但尋常小學校專科教

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

(注意)

○本條但書ニ尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハストアリ其主意タル明治廿四年十一月十七日文部省令第二十三号正教員准教員ノ別改正ノ説明ニ依レハ尋常小學校專科教員ニ關シテ本令(省令第二十三号ヲ云フ)ニ於テ之ヲ規定セス是レ實際其必要ナシト信スレハナリ云々又抑モ尋常小學校ニ於テハ成ルヘク其教科目若クハ教員等ヲ増サスシテ成ルヘク多數ノ兒童ヲ就學セシムルヲ要ス故ニ一方ニハ務メテ少數ノ教員ヲ以テ多數ノ兒童ヲ受持タシメントナ計リ又一方ニハ僅ニ一二ノ隨意科目等ノ爲メニ特殊ノ教員ヲ任用スルカ如キコトヲ避ケ以テ費用ノ節減ヲ圖ラサルヘカラス是亦本令(全上)ノ舊令ト其精神ヲ異ニスル所

受 檢 者 必 携

ナリ但富有ナル地方等ニ於テ事實已ムヲ得サル場合ニハ高等小學校專科教員ヲ尋常小學校ニ任用シテ手工裁縫等ノ教授ヲナサシムル等實際ニ於テハ便宜ノ方法アルヘキナリトアリ以テ尋常小學校專科教員ノ檢定ヲ行ハレサル所以ヲ知ルニ足ランカ

第九條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其程度ハ左ノ如シ但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得又裁縫ハ女子ニ限ル

修身

人倫道德ノ要旨

教育

教授ノ原理學校管理ノ方法及質地授業

國語

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

尋常師範學校ノ程度ニ準ス  
算術

尋常師範學校ノ程度ニ準ス

地理

日本地理外國地理ノ大要

歴史

日本歴史ノ大要

習字

楷書、行書、草書

圖畫

自在畫法ノ大要

音樂

單音唱歌及樂器用法ノ大要

體操

普通體操及兵式體操(男子ニ限ル)

裁縫

通常衣服ノ縫方裁方

尋常小學校本科准教員ノ試験科目ハ前項ニ同シ其程度ハ府縣知事  
之ヲ定ムヘシ

(備考)

◎第九條乃至第十二條ハ試験ノ科目及程度ヲ定ム其圖畫、音樂、體操  
ノ一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得シメタルハ主トシテ特別  
ノ事情アル地方ノ便宜ヲ計リタルモノナリ(説明書)

◎尋常師範學校ノ學科及其程度ハ第五款ニ掲ク參照スヘシ

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

◎尋常小學校本科准教員試驗科目ノ程度ニ關シ大阪府細則ハ左ノ如シ(明治廿五年六月府令第三十四號)

○第三條 尋常小學校本科准教員試驗科目ノ程度ハ左ノ如シ但圖書音樂体操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

修身

人倫道德ノ要旨

教育

教授及管理ノ方法

國語

國文ノ讀方及作文

算術

加減乘除度量衡貨幣及時刻ノ計算(筆算珠筆)分數小數簡易

ナル比例(筆算)

地理

管内地理及日本地理ノ大要

歴史

日本歴史ノ大要

習字

楷書行書草書

圖書

簡易ナル自在畫

音樂

單音唱歌

体操

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携

普通体操(女子ハ徒手演習トス)及兵式体操(男子ニ限ル)

裁縫

通常衣服縫方(女子ニ限ル)

第十條 高等小學校本科男教員ノ試験科目ハ修身、教育、國語、漢文、數學、簿記、地理、歴史、博物、物理、化學、習字、圖畫、音樂、及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得  
前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス  
准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(備考)

◎圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得ル理由ハ前條ニ全シ

◎尋常師範學校ノ學科及其程度ハ第五款ニ掲ク參照スヘシ

受 檢 者 必 携

◎高等小學校本科男准教員試験科目ノ程度ニ關シ大阪府ノ細則ハ

左ノ如シ(明治廿五年六月  
府令第三十四號)

○第四條 高等小學校本科男准教員試験科目ノ程度ハ左ノ如シ

但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

修身

人倫道德ノ要旨

教育

教授ノ原理及教授管理ノ方法

國語

國文ノ讀ミ方、文法ノ大要及作文

漢文

簡易ナル漢文ノ讀ミ方

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携



受檢者必携

數學

算術(加減乘除度量衡貨幣及時刻)計算(筆算珠算其他)筆算(トス)及幾何ノ初步

簿記

日用簿記ノ大要

地理

管内地理日本地理及外國地理ノ大要

歷史

日本歷史

博物

普通ノ動物植物礦物及人身生理衛生ノ大要

物理

物理學上ノ現象及普通ノ器械構造作用

化學

無機化學上ノ現象

習字

楷書行書草書

圖畫

自在畫及用器畫

音樂

單音唱歌及樂器用法ノ大要

体操

普通体操及兵式体操

第十一條 高等小學校本科女教員 試驗科目ハ修身、教育、國語、數學、地

○第一款 小學校教員檢定期則并說明等

受 檢 者 必 携

理、歴史、理科、家事、習字、圖畫、音樂、及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得  
前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准  
教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(備考)

◎圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ヲ缺クコトヲ得ル理由ハ前  
條ニ全シ

◎尋常師範學校ノ學科及其程度ハ第五款ニ掲ク參照スヘシ

◎高等小學校本科女准教員試驗科目ノ程度ニ關シ大阪府ノ細則ハ  
左ノ如シ(明治廿五年六月  
府令第三十四號)

○第五條 高等小學校本科女准教員試驗科目ノ程度ハ左ノ如シ  
但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

受 檢 者 必 携

修身

入倫道德ノ要旨

教育

教授ノ原理及教授管理ノ方法

國語

國文ノ讀ミ方文法ノ大要及作文

數學

算術(加減乘除度量衡貨幣及時刻ノ計算ハ筆算珠算其他ハ

筆算トス)

地理

管内地理日本地理及外國地理ノ大要

歴史

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携

日本歴史

理科

普通ノ動物植物礦物自然ノ現象及人身生理衛生ノ大要

家事

通常衣服ノ縫方裁方及家事經濟ノ大要

習字

楷書行書草書

圖書

自在畫及用器畫

音樂

單音唱歌及樂器用法ノ大要

体操

明治二十六年七月文部省令第十號ヲ以テ裁縫ノ一科ヲ加ヘラル

受 檢 者 必 携

普通体操徒手及啞鈴演習

第十二條

高等小學校專科教員ノ試験科目ハ圖書音樂體操家事手工

農業商業外國語裁縫ノ一科目若クハ數科目トス但何レノ科目ニ就

キテモ授業法ヲ附帶シテ試験ヲ行フモノトス

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ニ於ケル程度

ト同等以上トス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

專科正教員ニ就キテハ讀書習字及算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スル

者ニ非サレハ試験ヲ行ハス

(備考)

◎第十二條第三項ハ先ツ受檢者ニ就キ其學力ノ有無ヲ試ミルヲ常

例トシ其學力アルコト明カナルモノ、如キハ其手續ヲ省クモ妨

ケナカルヘシ(説明書)

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

◎尋常師範學校ノ學科及其度程ハ第五款ニ掲ク參照スヘシ

◎高等小學校專科准教員ノ試驗科目ノ程度ニ關シ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ(明治廿五年六月度令第三十四號)

○第六條 高等小學校專科准教員試驗科目ノ程度左ノ如シ

圖畫

自在畫及用器畫

音樂

單音唱歌及樂器用法

体操

普通体操及兵式体操

家事

通常衣服ノ縫方裁方及家事經濟ノ大要

受 檢 者 必 携

手工

木工具金工具ノ種類用法及工業經濟ノ大要

農業

土壤植物ノ成分肥料農具ノ用法及家畜ノ撰擇保護農業經

濟ノ大要

商業

商店會社賣買金融運送保險等ニ關スル事項ノ大要及商用

簿記ノ大要理財學ノ大要

外國語

英文ノ讀方譯解文法作文及習字

◎專科正教員ノ學力ニ關シ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ

○第九條 高等小學校專科正教員ノ乙種檢定ヲ請フ者ハ讀書習

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

字及算術ニ關シ高等小學校四箇年(裁縫ニ限リニケケ年)ノ課程ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力アル者ニ限ル

(注意)

○大阪府細則第九條ニ高等小學校四ケ年ノ課程ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力アルモノニ限ルトアリ卒業ヲ認ムルハ高等小學校ノ證書ニ依リ、學力ヲ認ムルハ便宜讀書習字及算術ニ就キ特ニ試験セラル、モノト知ルヘシ

第十三條 左ニ掲クル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請フ者ハ其學力ヲ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルトキハ其一科目若クハ數科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得

- 一 他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者
- 二 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル

受 檢 者 必 携

教育ヲ受ケタル卒業生

- 三 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
- 四 従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又小學師範學科卒業證書ヲ受得シタル者
- 五 准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有効期限滿チタル者
- 六 中學校卒業生
- 七 文部大臣ニ於テ尋常中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業生

(備考)

○第十三條ニ依リ一科目若クハ數科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得ルノ如何ハ本人志願ノ科目ト其程度トヲ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及程度ニ對照シ其當否ヲ認メテ之ヲ決定スヘキナリ故ニ

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

准教員又ハ授業生ノ免許狀ヲ有シテ正教員ノ試験ヲ請フ者ノ如キハ仮令科目ハ新舊相當スルモノアルヘキモ其程度異ナルヲ以テ其試験ヲ缺クコトヲ得サルコト勿論トス(説明書)

◎本條一科目若クハ數科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得ルニ關シ大阪府ノ細則左ノ如シ(明治廿五年六月府令第三十四號)

○第八條 乙種ノ檢定ヲ請フニ方リ小學校教員學力檢定等ニ關スル規則第十三條ニ據リ其學科ノ認定ヲ請ハントスル者ハ同條中其由ルヘキ項目并學科目ヲ申出ツヘシ

(注意)

○本條ニ掲グル第一ヨリ第七ニ該當スルモノニ限り既修ノ學科ニシテ本則第九條乃至第十二條ノ學科目ト全キトキハ其何レノ免許狀若クハ卒業證書ヲ受得シタル旨ヲ申立テ認定ヲ受クルトキ

受 檢 者 必 携

ハ其學科目ノ試験ヲ受クルヲ要セスシテ他ノ學科ノミ試験ヲ受ケ合格スルトキハ全科ニ對スル免許狀ヲ授與セラルヘキナリ仮令ハ従前受ケタル所ノ修身、習字、作文、算術若クハ圖畫、唱歌、体操等ノ一科若クハ數科ノ地方免許狀ヲ有スル者ノ如キ皆本條ニ依リ認定ヲ受クルコトヲ得ヘシ其第七款ニ就キテハ高等女學校商業學校農學校等ノ如キ又認定ヲ受クルコトヲ得ヘシ  
第十四條 正教員ノ免許狀ハ其府縣限り終身有効トス  
准教員ノ免許狀ハ其府縣限り有効トス其有効期限ハ七箇年以内ニ於テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(備考)

◎准教員免許狀ノ有効期限ニ關シ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ(明治廿五年六月府令第三十四號)

三月府令第三十四號

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

○第十條 小學校准教員ノ免許狀ハ授與ノ日ヨリ七ケ年間有効トス

第十五條 府縣知事ハ小學校教員候補者ノ名籍ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者アル都度其氏名等ヲ之ニ登録スヘシ  
府縣知事ハ前項ノ登録ヲ了リタルトキハ其氏名等ヲ管内へ告知スヘシ

(備考)

○本條ノ規定ニ關シ身上ノ異動ヲ明カナラシメンカ爲メ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ

○第十五條 族籍氏名住所其他一身上ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ其免許狀面記載ノ事項ニ關スルトキハ市町村長ノ証明ヲ得免許狀ヲ添付スヘシ

○第十六條 免許狀ヲ有スル者死亡シタルトキハ其親族等ヨリ届出ベシ

第十六條 小學校教員免許狀ヲ有スル者現ニ教員ノ職ニ在ラサルモ免許狀ヲ褫奪セラルヘキ教員ト同様ノ行爲アルトキハ府縣知事其免許狀ヲ褫奪スヘシ此場合ニテハ其族籍氏名並事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

(備考)

○小學校令第六十四條 市町村立小學校長及教員職務ヲ粗畧ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又ハ体面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責、罰俸、免職、免許狀褫奪トス  
私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ  
免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四  
日以内ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則並ニ私立小學  
校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之  
ヲ定ム

◎第六十五條 小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若ク  
ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セ  
ラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラル、モノトス

(注 意)

○小學校令第六十四條末項ニ關スル規則ハ明治廿四年十一月文部  
省令第二十二號ヲ以テ定メラレタリ

第十七條 府縣知事ハ檢定ヲ請フ者及免許狀ヲ受クル者ヲシテ相當  
ノ手数料ヲ納メシムルコトヲ得

(備 考)

◎檢定及免許手数料ニ關シ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ(明治廿五年六月  
府令第三十四號)

○第十二條 檢定ヲ請フ者及免許狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ依  
リ手数料ヲ納ムヘシ但其既ニ納メタル手数料ハ願下チナシ若  
クハ試験ニ應セサル者ト雖モ之ヲ還付セス

正教員ノ檢定ヲ請フ者 金壹圓

准教員ノ檢定ヲ請フ者 金五拾錢

正教員ノ免許狀ヲ受クル者 金五拾錢

准教員ノ免許狀ヲ受クル者 金貳拾五錢

尋常師範學校卒業ノ際ニ在リテハ前項ノ手数料ヲ要セス

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携



受 檢 者 必 携

○第十四條 免許狀ヲ毀損亡失シ再下附ヲ請フ者ハ更ニ第十二條ノ免許手数料ノ半額ヲ納ムヘシ  
 第十八條 免許狀ノ書式ハ左ノ如シ但准教員免許狀ノ書式ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ  
 師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族籍 何學校卒業生 氏 名 生 年 月

右ハ何府縣管内ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日 府縣知事位勳爵 氏 名印

受 檢 者 必 携

師範學校卒業生ニ非サル者ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族籍 何科目、何科目 氏 名 生 年 月

何科目、何科目

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ何府縣管内ニ於テ(尋常)小學校本科(專科)正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日 府縣知事位勳爵 氏 名印

番号

(備考)

○第一款 小學校教員檢定期則并説明等

受 檢 者 必 携

四十二

◎小學校准教員ノ免許狀ニ關シ大阪府ノ細則ハ左ノ如シ(明治廿五年六月廿五令第三十四號)

○第十一條 小學校准教員ノ免許狀ノ書式ハ左ノ如シ  
大阪府尋常師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校准教員免許狀	何府縣身分
大阪府尋常師範學校卒業生	氏 名
生 年 月	
右ハ大阪府管内ニ於テ七ヶ年間小學校本科准教員タルヲ免許ス	
年 月 日	大阪府知事位勳 氏 名印
番 号	

受 檢 者 必 携

師範學校卒業生ニアラサル者ニ與フルモノ

小學校准教員免許狀	何府縣身分
何科目、何科目	氏 名
生 年 月	
右ハ前記科目ニ就キ檢定シ大阪府管内ニ於テ七ヶ年間(尋常)小學校本科(專科)准教員タルコトヲ免許ス	
年 月 日	大阪府知事位勳 氏 名印
番 号	

第十九條 本科教員免許狀ヲ有シテ圖畫、音樂、体操、家事、手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目ヲ教授シ得ル者ハ專科教員タルコト

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

四十三

ヲ得ルモノトス

第二十條 此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

(備考)

◎地方長官ニ於テ規定スヘキ細則ニ加フヘキ件ハ檢定出願ノ手續  
檢定ノ時期等ハ勿論其他本則ヲ施行スルニ要スルモノトス夫ノ  
准教員ノ試験ニ關スルモノ、如キモ之ヲ一括ニ規定スル等專ヲ  
地方ノ便宜ニ依ルコトヲ得ヘシ(説明書)

(注意)

○府縣知事ニ於テ定ムヘキ細則ニシテ大阪府ノ規定ハ前各條ノ備  
考中ニ挿入セシカ尙ホ其全文ハ第二款ニ掲載ス

第二章 文部省ニ於ケル檢定等

第二十一條 左ニ掲クル者ハ府縣知事文部省直轄學校長等ノ具申ニ

### 受 檢 者 必 携

基キ文部大臣之ヲ檢定シテ小學校教員普通免許狀ヲ授與ス

一 小學校正教員免許狀又ハ従前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀

若クハ小學師範學科卒業證書ヲ受得シ五箇年以上公立小學校  
教員ノ職ニ在リテ品行方正ニシテ學術及授業超衆ノ者

二 高等師範學校又ハ女子高等師範學校卒業生ニシテ一箇年以上  
小學校教員ノ職ニ在リシ者

三 文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル  
教育ヲ受ケタル卒業生ニシテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在  
リシ者

小學校教員普通免許狀ハ全國ニ通シテ修身有効ノモノトス

(備考)

◎第二十一條以下ハ文部大臣ノ檢定ヲ以テ普通免許狀ヲ授與スル

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

受 檢 者 必 携

ノ制ヲ設ケタルモノニシテ從來ノ規定ト大差ナシトス(説明書)  
 第二十二條 第十六條及第十九條ノ規程ハ小學校教員普通免許狀ヲ  
 有スル者ニ關シ之ヲ適用ス  
 第二十三條 小學校教員普通免許狀ノ書式ハ左ノ如シ  
 本科正教員ニ與フルモノ

小學校教員普通免許狀

族籍 氏 名  
 生 年 月  
 右ハ全國ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス  
 年 月 日 文部大臣位勳爵 氏 名印  
 番 號

專科正教員ニ與フルモノ

受 檢 者 必 携

小學校教員普通免許狀  
 族籍 氏 名  
 生 年 月  
 何科目 何科目  
 右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ全國ニ於テ小學校專科正  
 教員タルコトヲ免許ス

年 月 日 文部大臣位勳爵 氏 名印  
 番 號

說 明

小學校教員ノ資格ニ就テハ明治五年學制頒布以來多少其規定ナキニ

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

## 受 檢 者 必 携

アラサリシモ明治十四年小學校教員免許狀授與方心得テ定メ地方長官ナシテ其規則ヲ設ケシメシニ至リテ粗其制備ハリシカ如シ然レトモ當時尙師範學校ノ卒業証書ト師範學校卒業生ニ非サル者ニ與フル小學校教員免許狀トハ互ニ而立シテ各其用ヲ爲スモノナリシナ明治十九年ニ至リテ小學校教員免許規則ヲ定メ凡ソ小學校教員タル者ハ其師範學校卒業生タルト否トヲ問ハス又訓導タルト授業生タルトナル論セス一般ニ免許狀ヲ有セサルヘカラサルモノトナシタルヲ以テ其資格ノ制始メテ統一ノモノトナレリ然リト雖其檢定試験ノ方法實際ニ適合セサルモノ多キガ爲メ適良ナル正教員ヲ増加スルノ方法ヲ求ムルト極メテ難カリキ今ヤ小學校令ノ改正ニ依リ本則ヲ發布シテ之ヲ舊制ニ代フルニ至リタリ

本則ニ於テハ小學校令ノ旨趣ニ基キ檢定委員ハ組織權限檢定ノ科目

## 受 檢 者 必 携

方法受檢者ノ資格教員ノ免許狀教員候補者等ニ關スル件ヲ網羅シ舊制ニ於ケル諸々ノ事項ヲ取捨折衷シテ徒ニ學力ノミニ拘ハラス實際經驗アリテ其効績著キモノ、如キハ學力ヲ試験セス便宜檢定シテ免許狀ヲ與フルヲ得ルノ途ヲ開キ地方官ナシテ實際ノ情勢ヲ考ヘ充分ニ運用スルヲ得シムルノ餘地ヲ存スルト同時ニ僥倖濫授ノ弊ヲ生セサラシメンコトヲ期スルモノナリ

檢定委員ノ數ノ如キハ時ノ必要ニ應シテ之ヲ定ムヘシト雖凡甲種檢定則チ學力試験ニ依ラス單ニ從來ノ資格等ニ依リテ認定スルモノ、如キハ其時期ヲ一定シ難カルヘキカ故ニ或ハ常設ノ委員ヲ置ノ必要有ラン(第一條)第三條ニ所謂相當ノ免許狀トハ受檢者ノ資格及檢定ノ成績ニ依リ高等小學校尋常小學校本科專科及正教員准教員等ノ別ニ相當セルモノヲ謂フ其但書ハ事特例ニ係ルヲ以テ其手續ヲ重クセルナ

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

## 受 檢 者 必 携

リ故ニ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經ルニハ本人ノ品行學力等ハ勿論其成績及名望ノ如何等ニ至ル迄公平ニシテ詳細ナル事由ヲ証明センコト必要ナリ

抑モ正教員ハ全ク獨立シテ兒童ノ教育ニ任セサルヘカラサルノ責アリ然ルニ夫ノ父兄ノ信用ヲ得テ其兒童ヲ教授訓育スル事ノ如キハ只學問授業等ノ方式ノミニ通シタルモノ、能クスヘキ所ニアラス必スヤ實地相應ノ經驗熟練ヲ要スヘキナリ故ニ師範學校ノ卒業生等ト雖モ一般ニ初メヨリ直ニ正教員ノ檢定ヲ請フヘキ資格ヲ具ヘサルコト明カナリ(第四條)

第七條ニ依リ甲種ノ檢定ヲ行フニ就キテハ第一款乃至第七款ニ掲クルモノ、中ニハ其學力及經歷等固ヨリ異同アルヲ以テ本科正教員本科准教員又ハ專科正教員專科准教員等各種ノ免許狀ヲ授與スルノ結

## 受 檢 者 必 携

果アルヘキコト勿論ナリ其第五款ニ掲クル者ハ其現ニ在職スル者ト否トヲ問ハス又有効年限ノ經過シタル者ト否トヲ論セス專ラ品行學力及經歷等ニ就キ其適不適ヲ認ムヘキナリ若シ夫レ此輩中一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシ者ニ至リテハ無論第四條第一款ニ該當スルモノト知ルヘシ其第六款ハ本則施行以後ノ者ニ關スルコト勿論トス

第九條乃至第十二條ハ試験ノ科目及程度ヲ定ム其圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ヲ欠クコトヲ得シメタルハ主トシテ特別ノ事情アル地方ノ便宜ヲ計リタルモノナリ又第十二條第三項ハ先ツ受檢者ニ就キ其學力ノ有無ヲ試ミルヲ常例トシ其學力アルコト明カナルモノ、如キハ其手續ヲ省クモ妨ケナカルヘシ

第十三條ニ依リ一科目若クハ數科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得ルノ如何

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

受 檢 者 必 携

ハ本人志願ノ科目ト其程度トヲ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及程度ニ對照シ其當否ヲ認メテ之ヲ決定スヘキナリ故ニ准教員又ハ授業生ノ免許狀ヲ有シテ正教員ノ試験ヲ請フ者ノ如キハ假令科目ハ新舊相當スルモノアルヘキモ其程度異ナルヲ以テ其試験ヲ缺クコトヲ得サルコト勿論トス

地方長官ニ於テ規定スヘキ細則ニ加フヘキ件ハ檢定出願ノ手續檢定ノ時期等ハ勿論其他本則ヲ施行スルニ要スルモノトス夫ノ准教員ノ試験ニ關スルモノ、如キモ之ヲ一括ニ規定スル等專ラ地方ノ便宜ニ依ルコトヲ得ベシ(第二十條)

第二十一條以下ハ文部大臣ノ檢定ヲ以テ普通免許狀ヲ授與スルノ制ヲ設ケタルモノニシテ從來ノ規定ト大差ナシトス

○

受 檢 者 必 携

文部省令第一號 (明治二十六年三月十八日)

北海道廳長官府縣知事ニ於テ特ニ小學校正教員ノ急需アリト認ムル場合ニ於テハ明治二十四年<sup>十一月</sup>文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第七條第一款ノ者ニ限り公立小學校准教員ノ職ニ在リシコト一箇年以内ト雖<sup>モ</sup>檢定ノ上小學校准教員ノ免許狀ヲ授與スルコトヲ得

(備考)

◎明治廿四年十一月文部省令第十九號第七條第一款抄錄

第七條 甲種ノ檢定ハ左ニ掲クル者ニ限り之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ掲クル科目及其程度ヲ參照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

○第一款 小學校教員檢定規則并說明等

一高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生

(注意)

○本令ハ急需アル場合即チ北海道廳長官府縣知事ニ於テ必要ト認メタルトキニ限ルモノナレハ出願ヲ要セス直ニ檢定シテ免許狀ヲ下附セラルヘシ左レハ別ニ檢定手數料又ハ免許手數料ヲ納ムルニ及ハサルモノト知ルヘシ

○

文部省令第二號 (明治二十六年三月十八日)

市町村立小學校ニ代用スル私立小學校又ハ設置以來三箇年ヲ經過シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ教育上相當ノ成績アリト認ムル私立小學校ニ於テ一箇年以上准教員ノ職ニ在リシ者ハ明治二十四年十一月文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第四條第一款ニ準シ

受 檢 者 必 携

取扱フコトヲ得

(備考)

○明治二十四年十一月文部省令第十九號第四條第一款抄錄

第四條 正教員ノ檢定ヲ請フモノハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一准教員ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス

(注意)

○本令ニ關シテハ本人ノ出願ヲ俟ツテ檢定セラルヘキコト勿論ナルベシ

○

文部省令第十號 (明治二十六年七月二十二日)

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等



明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第十  
二條第一項ニ掲ケタル高等小學校專科教員ノ試験科目ニ裁縫ヲ加フ

(備考)

◎明治廿四年十一月文部省令第十九號第十二條第一項抄録

第十二條 高等小學校專科教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、体操、家事、  
手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目トス但何レノ科目  
ニ就キテモ授業法ヲ附帶シテ試験ヲ行フモノトス

◎本令ニ關シ同時ニ文部大臣ハ左ノ訓令ヲ發セラレタリ  
文部省訓令第八號 (明治二十六年七月二十二日)

北海道廳 府縣

普通教育ノ必要ハ男女ニ於テ差別アルコトナク且女子ノ教育ハ  
將來家庭教育至大ノ關係ヲ有スルモノナリ現在學齡兒童百人中

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

修學者ハ五十人強ニシテ其ノ中女子ハ僅ニ十五人強ニ過キス今  
不就學女子ノ父兄ヲ勸誘シテ就學セシムルコトヲ怠ラサルヘキ  
ト同時ニ女子ノ爲ニ其教科ヲ益ス實用ニ近切ナラシメサルヘカ  
ラス裁縫ハ女子ノ生活ニ於テ最モ必要ナルモノナリ故ニ地方ノ  
情況ニ依リ成ルヘク小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルヲ要ス  
裁縫ノ教員正當ノ資格アル者ヲ得難キノ場合ニ於テ一時雇員ヲ  
以テ之ニ充ツルモ妨ナシト雖モ其ノ人ノ性行ニ關シテ採用ノ際  
深ク注意ヲ加ヘンコトヲ要ス  
右訓令ス

(注意)

○本令ニテ裁縫ヲ加ヘラレタルヲ以テ單ニ裁縫一科ノミノ檢定ヲ  
請フコトヲ得ヘキハ勿論ナレトモ規則第十二條ニ規定セラレタ

○第一款 小學校教員檢定規則并説明等

ル授業法ハ必ス附帶シテ受ケサルヘカラス其正教員ノ檢定ヲ受ケントスルモノハ一ヶ年以上授業生又ハ准教員タリシ經歷ヲ有セサルヘカラス

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

大阪府令第三十四號

(明治廿五年六月八日)

明治十四年十一月十一日 文部省令第十九號 小學校教員檢定等ニ關スル規則第

二十條ニ基キ小學校教員檢定等ニ關スル細則左ノ通相定ム

小學校教員檢定等ニ關スル細則

第一條 甲種檢定ハ隨時乙種檢定ハ毎年四月之ヲ施行ス但乙種檢定ハ必要ニ依リ臨時施行スルコトアルヘシ

第二條 檢定ヲ請フモノハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式体格檢査

明治二十六年七月三十一日以前  
三號ヲ以テ第  
一號中七月三  
四月三十一日  
中五月三十一  
日ナラズ末日  
ト改正セラレ

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

書第三號書式履歷書及檢定手数料ヲ添ヘ所轄都市役所ヲ經テ甲種ハ隨時乙種ハ毎年二月末日限り出願スヘシ試験期日及臨時乙種檢定ニ關スルモノハ其都度告示ス

尋常師範學校卒業ノ際ニ在リテハ前項ノ出願ヲ要セス

第三條 尋常小學校本科准教員試験科目ノ程度ハ左ノ如シ但圖書音

樂体操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

脩身 人倫道德ノ要旨

教育 教授及管理ノ方法

國語 國文ノ讀ミ方及作文

算術 加減乗除度量衡貨幣及時刻ノ計算筆算珠算分數小數簡易ナル比例(筆算)

地理 管内地理及日本地理ノ大要

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

受檢者必携

- 歷史 日本歷史ノ大要
- 習字 楷書、行書、草書
- 圖畫 簡易ナル自在畫
- 音樂 單音唱歌
- 体操 普通体操(女子ハ徒手演習トス)及兵式体操(男子ニ限ル)
- 裁縫 通常衣服ノ縫方裁方(女子ニ限ル)
- 第四條 高等小學校本科男准教員試驗科目ノ程度ハ左ノ如シ但圖畫  
音樂、体操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得
- 修身 人倫道德ノ要旨
- 教育 教授ノ原理及教授管理ノ方法
- 國語 國文ノ讀ミ方文法ノ大要及作文
- 漢文 簡易ナル漢文ノ讀ミ方

受檢者必携

- 數學 算術(加減乘除度量衡貨幣及時刻ノ計算ハ筆算珠算其他ハ筆算トス)及幾何ノ初步
- 簿記 日用簿記ノ大要
- 地理 管内地理日本地理及外國地理ノ大要
- 歷史 日本歷史
- 博物 普通ノ動物植物礦物及人身生理衛生ノ大要
- 物理 物理學上ノ現象及普通ノ器械構造作用
- 化學 無機化學上ノ現象
- 習字 楷書、行書、草書
- 圖畫 自在畫及用器畫
- 音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要
- 体操 普通体操及兵式体操

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

受 檢 者 必 携

第五條 高等小學校本科女准教員試驗科目ノ程度ハ左ノ如シ但圖書  
 音樂、体操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得  
 修身 人倫道德ノ要旨  
 教育 教育ノ原理及教授管理ノ方法  
 國語 國文ノ讀ミ方文法ノ大要及作文  
 數學 算術(加減乘除度量衡貨幣及時刻ノ計算ハ筆算珠算其他ハ筆  
 算トス)  
 地理 管内地理日本地理及外國地理ノ大要  
 歷史 日本歷史  
 理科 普通ノ動物植物礦物自然ノ現象及人身生理衛生ノ大要  
 家事 通常衣服ノ縫方裁方及家事經濟ノ大要  
 習字 楷書、行書、草書

受 檢 者 必 携

圖書 自在畫及用器畫  
 音樂 單音唱歌及樂器用法ノ大要  
 体操 普通体操(徒手及啞鈴演習)  
 第六條 高等小學校專科准教員試驗科目ノ程度ハ左ノ如シ  
 圖書 自在畫及用器畫  
 音樂 單音唱歌及樂器用法  
 体操 普通体操及兵式体操  
 家事 通常衣服ノ縫方裁方及家事經濟ノ大要  
 手工 木工具金工具ノ種類用法及工業經濟ノ大要  
 農業 土壤植物ノ成分肥料農具ノ用法及家畜ノ撰擇保護農業經濟  
 ノ大要  
 商業 商店會社賣買金融運送保險等ニ關スル事項ノ大要及商用簿

記ノ大要理財學ノ大要

外國語 英文ノ讀ミ方譯解文法作文及習字

第七條 小學校本科教員乙種ノ檢定ヲ請フ者ニシテ試驗科目中圖書音樂及体操ノ一科目若クハ數科目ヲ缺ガントスルトキハ其學科目ヲ申出ツベシ

第八條 乙種ノ檢定ヲ請フニ方リ小學校教員學力檢定等ニ關スル規則第十三條ニ據リ其學科ノ認定ヲ請ハントスル者ハ同條中其由ルヘキ項目並ニ學科目ヲ申出ツヘシ

第九條 高等小學校專科正教員ノ乙種檢定ヲ請フ者ハ讀書習字及算術ニ關シ高等小學校四箇年(<sup>裁</sup>ニニ<sup>限</sup>ニケケ年)ノ課程ヲ卒業シタル者及之ト同等以上ノ學力アル者ニ限ル

第十條 小學校准教員ノ免許狀ハ授與ノ日ヨリ七ケ年間有効トス

受 檢 者 必 携

第十一條 小學校准教員ノ免許狀ノ書式ハ左ノ如シ

大阪府尋常師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校准教員免許狀	
何府縣身分	大阪府尋常師範學校卒業生 氏 名
生 年 月	右ハ大阪府管内ニ於テ七ケ年間小學校本科准教員タル
コトヲ免許ス	大阪府知事位勳 氏 名印
年 月 日	番 號

受 檢 者 必 携

師範學校卒業生ニアラサル者ニ與フルモノ

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

受 檢 者 必 携

小學校准教員免許狀

何府縣身分

何科目 何科目

氏 名

生 年 月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ大阪府管内ニ於テ七ケ年  
間(尋常)小學校本科(專科)准教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

大阪府知事位勳 氏 名印

番 號

第十二條 檢定ヲ請フ者及免許狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ但其既ニ納メタル手數料ハ願下ナシ若クハ試験ニ應セサル者ト雖斥之ヲ還付セス

受 檢 者 必 携

- 正教員ノ檢定ヲ請フ者 金壹圓
- 准教員ノ檢定ヲ請フ者 金五拾錢
- 正教員ノ免許狀ヲ受クル者 金五拾錢
- 准教員ノ免許狀ヲ受クル者 金貳拾五錢
- 尋常師範學校卒業ノ際ニ在リテハ前項ノ手數料ヲ要セス
- 第十三條 檢定合格者ニハ郡市役所ヲ經テ免許狀ヲ授與ス
- 第十四條 免許狀ヲ毀損亡失シ再下付ヲ請フ者ハ更ニ第十二條ノ免許手數料ノ半額ヲ納ムヘシ
- 第十五條 族籍氏名住所其他一身上ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ其免許狀而記載ノ事項ニ關スルトキハ市町村長ノ証明ヲ得免許狀ヲ添付スヘシ
- 第十六條 免許狀ヲ有スル者死亡シタルトキハ其親族等ヨリ届出ツ

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

受 檢 者 必 携

ハシ  
第一号書式

小學校教員甲種(乙種)檢定願(用紙美濃紙)

私儀大阪府尋常小學校本科正教員(本科准教員、高等小學校本科正教員、本科准教員、專科正教員、專科准教員)志願ニ付甲種(乙種)檢定ノ上免許狀御授與相成度此段相願候也

何府縣何郡市町村何番屋敷身分戸主(何某幾男女兄弟姊妹妻等)

年 月 日

氏 名 印

生 年 月

(寄留者ハ其寄留所ヲ記載スヘシ)

大阪府知事氏名殿

前書出願ニ付奥印候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

第二號書式

体格検査書 (用紙美濃紙)

氏 名

生 年 月

一身丈

何々仙迷

一胸圍

常時何仙迷  
充溢全全  
空虚全全

一肺活量

何々仙迷

一体重

何々キロ瓦

一視力

普通若クハ強若クハ弱(ス子ルン氏ノ  
試視法ニ依ル)

一聽力

全

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

一 音 聲

全

一 痘

天然痘種痘若クハ未痘

右体格完全ニシテ健康ノ者ニ候也

(病院所在地若クハ開業醫ノ住所)

何病院(開業醫)

年 月 日

氏 名 印

第三號書式

履歷書式 (用紙美濃紙)二通ヲ要ス

何府縣何郡市町村何番屋敷身分戸主(何某幾男女兄弟姉妹等)

氏 名

生 年 月

受 檢 者 必 携

學 業

(寄留者ハ其寄留所ヲ記載スヘシ)

一 何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ官公立何々師範學校ニ於テ或ハ何處何某ニ隨ヒ何學修業

証 書

一 何々(前項ノ例ニ依リ修學ノ場所教師學科日年限等ヲ記載スヘシ)

一 何年何月何日官公立何々師範學校ニ於テ何々卒業證書受領別紙第一号寫ノ通

業 務

一 何々(前項ノ例ニ依リ免許狀等ヲ得タル府縣種類、年月日等ニ記載スヘシ)

一 何年何月何日何府縣何國何郡市立何學校何々ニ任セラレ月俸何圓

○第二款 大阪府小學校教員檢定細則等



受 檢 者 必 携

一何年何月何日何々ノ事故ヲ以テ依願免職  
一何々(前項ニ依リ職名俸給年月日  
其他ノ業務ヲ記載スヘシ)

七十二

賞 罰

一何年何月何日何府縣等ニ於テ何々ノ廉ニ依リ賞品何々或ハ賞  
金若干受領

一何々(前項ノ例ニ依リ賞罰ニ關ス  
ル一切ノ事項ヲ記載スヘシ)

改 氏 名 及 轉 籍 等

一何年何月何日何々(氏名)ヲ何々ト改ム

一何年何月何日何府縣何郡市何町村何番屋敷へ轉籍(舊籍何々)

一何々(前項ノ例ニ依リ改氏名等ニ關  
スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ)

右之通相違無之候也

年 月 日

氏 名 印

受 檢 者 必 携

○ 第三款 大阪府幼稚園保育科保母免許規則

大阪府令第十六号 (明治廿三年三月五日)

幼稚園  
保育科保母免許規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

幼稚園  
保育科保母免許規則

第一條 師範學校卒業生ニアラスシテ保母タラント欲スル者ハ本則

ニ據リ其學術ヲ試験シ合格ノ者ニハ免許狀ヲ授與スヘシ

但保育上經歷アルモノハ臨時檢定ヲ爲シ免許狀ヲ授與スルヲア

ルヘシ此場合ニ於テモ第二條第六條第七條第八條ヲ適用ス(明治二  
十三年

五月九日府令第三十二  
號ヲ以テ追加セララル

第二條 保母免許狀ヲ授與スヘキ者ノ年齢ハ滿十八年以上トス

第三條 保母學術試験ノ學科程度ハ左ノ如シ

一 倫理 人倫道德ノ要旨

○ 第三款 大阪府幼稚園(保育科)保母免許規則

七十三

受 檢 者 必 携

- 一 讀書 漢字交リ文
  - 一 作文 漢字交リ文日用書類
  - 一 算術 珠算四則ヨリ度量衡貨幣ノ計算法ニ至ル  
筆算命位記數ヨリ諸比例ニ至ル
  - 一 習字 楷行草
  - 一 圖畫 自在畫
  - 一 地理歴史 日本地理及歴史ノ大要
  - 一 理科 物理化學動植礦物、人身生理ノ初歩
  - 一 音樂 唱歌單複音、樂器ノ使用法
  - 一 教育 智徳体三育ノ理幼稚園ノ編制管理ノ方法、幼兒保育法
- 第四條 試験ハ一學科ノ定点ヲ百トシ每科ノ得点五十以上ニシテ各科ノ平均点六十以上ヲ得タルモノヲ合格トス

受 檢 者 必 携

- 第五條 學術試験期日ハ其施行ノ都度告示スルモノトス
- 第六條 試験ヲ受ケントスルモノ又免許狀ヲ得タルモノハ左ノ試験料及免許狀手数料ヲ所轄市郡役所(大阪市ハ區役所)ニ納ムヘシ
- 保姆試験料 金五拾錢
  - 保姆免許狀料 金貳拾五錢(明治二十五年六月八日府令第三十五號ヲ以テ改正セラレタルモノナリ)
- 但試験料ハ試験願下ヲナシ又ハ試験ニ應セサルモノ之ヲ還付セサルヘシ
- 第七條 免許狀ヲ毀損亡失シ再ヒ下付ヲ請フモノハ更ニ第六條免許狀ノ半額ヲ納ムヘシ(明治二十五年六月八日府令第三十五號ヲ以テ半額ト改正セラレ)
- 第八條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ左式ノ願書ニ試験料ヲ添ヘ所轄市郡役所(大阪市ハ區役所)ニ差出スヘシ
- 願書式(用紙美濃野紙)

幼稚園 保育科 保姆試驗願

私義御府下保姆志願ニ付學術御試驗ノ上免許狀御授與相成度別紙履歷書相添へ此段相願候也

何市郡區町村番地

族籍寄留ノモノハ本籍及寄留所トモ併記スヘシ

年月日

姓名印

前書之通出願候ニ付取調候處大阪府令第十六号保姆免許規則第九條ニ抵觸ノ者ニ無之候也

市郡區長 姓名印

履歷書式用紙同前

履歷書

何市郡區町村番地族籍寄留書式全前

受檢者必携

姓名印

生年月日

一學業

何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何尋常校又ハ何處ニ於テ何學

修業

一業務

何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何處何職ニ從事ス

一証書

証書受領ノ年月日及寫

一賞罰

何年何月何日何々ノ廉ニ依リ何々賞或ハ罰

右之通相違無之候也

○第三款 大阪府幼稚園(保育科)保姆免許規則

受 檢 者 必 携

年 月 日

第九條 明治十九年六月文部省令第十二號小學教員免許試驗規則第十二條ノ一項若クハ數項ニ抵觸ノモノハ免許狀ヲ授與セス既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

第十條 本期第一條本文ニ據リ授與スヘキ免許狀ハ第一樣式トシ全條但書ニ據リ授與スヘキ免許狀ハ第二樣式トス  
(明治二十三年八月十六日府令第四十二號ヲ以テ改正セラレタルモノナリ)

第一樣式

保姆免許狀

族籍

氏

生 年 月

受 檢 者 必 携

第二樣式

右ハ幼稚園及小學校保育科保姆タルコトヲ免許ス

番 號

年 月 日

府

名

保姆免許狀

族籍

氏

生 年 月

右ハ從來ノ經歷ニヨリ幼稚園及小學校保育科保姆タルコトヲ免許ス

番 號

年 月 日

府

名

○第三款 大阪府幼稚園(保育科)保姆免許規則

(備考)

◎文部省令第十八号 (明治廿四年十一月十七日)

幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學等ニ關スル規則

第一條 幼稚園保母ハ女子ニシテ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府縣知事ノ免許ヲ得タルモノトス

◎幼稚園ノ保母盲啞學校各種學校教員ノ如キハ特別堪能ヲ要スルモノナリ故ニ若シ其資格ヲ單ニ小學校教員ノ一二限ルトキハ適當ナル人物ヲ得ルノ困難ナキニアラス殊ニ盲啞ノ兒童ニ特殊ノ技藝ヲ授クル者ノ如キハ小學校教員中ニ其人ヲ求ム可ラス是レ別ニ地方長官ニ於テ便宜免許狀ヲ與フルコトヲ得ルノ途ヲ開キタル所以ナリ(説明書)

受 檢 者 必 携

○第四款 大阪府幼稚園保育科助手免許規則

大阪府令第十七號 (明治廿三年三月五日)

幼稚園保育科助手免許規則ヲ定ムルヲ左ノ如シ

幼稚園保育科助手免許規則

第一條 幼稚園若クハ保育科助手タラント欲スル者ハ本則ニ據リ其學術ヲ試験シ合格ノ者ニハ免許狀ヲ授與スヘシ

但保育上經驗アルモノハ臨時檢定ヲ爲シ免許狀ヲ授與スルヲアルヘシ此場合ニ於テモ第二條第六條第七條第八條ヲ適用ス(明治三十三年五月九日府令第三十二號ヲ以テ追加セラル)

第二條 助手免許狀ヲ授與スヘキ者ノ年齡ハ十七年以上トス

第三條 助手學術試験學科程度ハ左ノ如シ

一 倫理 道德ノ要旨

○第四款 大阪府幼稚園(保育科)助手免許規則

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

- 一 讀書 讀方容易ナル仮名交リ文
- 一 作文 漢字交リ文
- 一 算術 珠算 四則
- 一 筆算 記數命位ヨリ分數初步迄
- 一 習字 楷行草
- 一 圖畫 自在畫
- 一 音樂 唱歌單音、樂器ノ使用法
- 一 教育 教育ノ大意幼兒保育法
- 第四條 試験ハ一學科ノ定点ヲ百トシ每科ノ得点五十以上ニシテ各科平均点六十以上ヲ得タルモノヲ合格トス
- 第五條 學術試験期日ハ其施行ノ都度告示スルモノトス
- 第六條 試験ヲ受ケントスルモノ又免許狀ヲ得タルモノハ左ノ試験

受 檢 者 必 携

- 料及免許狀手数料ヲ所轄市郡役所(大阪市ハ區役所)ニ納ムヘシ
- 助手試験料 金三十拾錢
- 助手免許料 金拾五錢(明治二十五年六月八日府令第三十六號ヲ以テ改正セラレタルモノナリ)
- 第七條 免許狀ヲ毀損亡失シ再ヒ下附ヲ請フモノハ更ニ第六條免許料ノ半額ヲ納ムヘシ(明治二十五年六月八日府令第三十六號ヲ以テ半額ト改正セラレ)
- 第八條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ試験料ヲ添へ所轄市郡役所(大阪市ハ區役所)ニ差出スヘシ
- 但願書式及履歷書式ハ保姆免許規則ニ全シ
- 第九條 明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許試験規則
- 第十二條ノ一項若クハ數項ニ抵觸ノモノハ免許狀ヲ授與セス既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒収スヘシ
- 第十條 本期第一條本文ニ據リ授與スヘキ免許狀ハ第一様式トシ全

○第四款 大阪府幼稚園(保育科)助手免許規則

受 檢 者 必 携

條但書ニ據リ授與スヘキ免許狀ハ第二樣式トス  
第一樣式

八十四

助手免許狀

族籍	氏	生	年	月	名
右ハ幼稚園及小學校保育科助手タルコトヲ免許ス					
府	名	年	月	日	番
号					

第二樣式

助手免許狀

族籍	氏	生	年	月	名
右ハ從來ノ經歷ニヨリ幼稚園及小學校保育科助手タルコトヲ免許ス					
府	名	年	月	日	番
号					

受 檢 者 必 携

○第五款 雜

大阪府令第三十八号 (明治廿五年六月二十三日)

大阪市ニ於テ學事ニ關シ知事ニ差出スヘキ書面中小學校教員檢定及  
私立幼稚園圖書館學校ニ關スル事項ハ自今區長ヲ經由スヘシ

○第五款 雜

八十五

大阪府訓令第三十三号 (明治廿五年六月廿三日)  
本年六月大阪府令第三十八号ニ依リ經由スヘキ書面ハ區長ニ於テ制  
規ニ照準シ調査ノ上意見ヲ付シ若クハ奥印ノ上進達スヘシ

文部省令第八號 (明治廿五年七月十一日官報)

明治十九年五月文部省令第九號尋常師範ノ學科及其程度及明治二十  
二年十月文部省令第八號尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科及其  
程度ヲ改正スルコト左ノ如シ但シ明治二十六年四月一日ヨリ之レヲ  
施行ス

尋常師範學校ノ學科及其程度

第一條 尋常師範學校ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語、漢

受 檢 者 必 携

文、歴史、地理、數學、物理、化學、博物、習字、圖畫、音樂、體操トス  
土地ノ情况ニ依リ外國語、農業、商業、手工ノ中一科目若クハ數科目ヲ  
加ヘタル場合ニ於テハ生徒ノ所長ニ依リ其中ニ就キ一科目ヲ課ス  
ルモノトス

第二條 尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語、漢  
文、歴史、地理、數學、理科、家事、習字、圖畫、音樂、體操トス

第三條 尋常師範學校ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ四ヶ年トシ女  
生徒ニ就キテハ三ヶ年トス

第四條 土地ノ情况ニ依リ尋常師範學校簡易科豫備科小學校教員購  
習科幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得此場合ニハ北海道廳長官府  
縣知事ニ於テ其事由及方法ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クベシ

第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制スヘシ但一學級

受 檢 者 必 携



受 檢 者 必 携

- ノ生徒數ハ凡二十人以上三十人以下タルヘシ
- 第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ分テ三學期トス
- 第七條 教授日數ハ毎年四十五週教授時間ハ每週三十四時トス  
土地ノ情況ニ依リ前項ノ教授日數ヲ三週以内減シ若クハ夏季休業ノ前後各二週以内ハ每週教授時間ヲ十時以内減スルコトヲ得
- 第八條 第一條第二項ニ依リ學科目ヲ加ヘ又ハ第五條ニ依リ學級ヲ編制シ若クハ前條第二項ニ依リ教授日數ヲ減シタルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其事由ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第九條 尋常師範學校ノ教育ノ要旨ハ左ノ如シ
- 一 尋常師範學校ニ於テハ師範學校令ノ旨趣ニ基キテ生徒ヲ教育スヘシ

受 檢 者 必 携

- 二 精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス
- 三 尊王愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明カニシ國民タル志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス
- 四 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス
- 五 身體ノ健康ハ業ヲ成ス基ナリ故ニ生徒ヲシテ平素衛生ニ留意シ體操ヲ勉メ健康ヲ増進セシメンコトヲ要ス
- 六 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校教則大綱ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ

受 檢 者 必 携

九十

- 七 教授ハ常ニ其方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方  
法ヲ會得セシメントヲ務ムヘシ
- 八 言語ノ明瞭正確ナルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ必要トス故  
ニ教授ノ際常ニ生徒ヲシテ其口述ヲ正シクシ以テ言語ヲ練習  
セシメントヲ務ムヘシ
- 九 學習ノ法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生  
徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技藝ヲ研ク習慣ヲ養ハシメント  
トヲ務ムヘシ
- 十 學科ハ規定ノ教科書ニ基キテ教授センコトヲ要ス
- 第十條 尋常師範學校ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如シ  
一 修身

第一學年

每週二時

受 檢 者 必 携

教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ク

第二學年

每週二時

前學年ニ準シ較詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク

第三學年

每週二時

前學年ニ準ス

修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年

每週二時

前學年ニ準シ更ニ帝國憲法ノ要領ヲ授ク

修身ヲ授クルニハ躬行實踐ヲ旨トシ徒ニ理論ニ偏セサランコト

ヲ要ス

二 教育

第一學年

每週二時

○第五款 雜

九十一

受 檢 者 必 携

教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ  
要略ヲ授ク

第二學年 每週二時

教育ノ原理 心理ノ大要ヲ授ク

第三學年 每週三時

教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ヲ授ケ又論理ノ大要及  
教授ノ原則ヲ授ク

第四學年 每週十七時 教育ノ原理教育法令及學校管理法 每週二時  
實地 授業 每週十五時

教育ノ原理 前學年ノ續

教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學  
校ノ設置編制設備管理經濟衛生等ノ方法ヲ授ケ兼テ地方制度  
ノ大要ヲ授ク

受 檢 者 必 携

實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム

教育ヲ授クルニハ殊ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ理會セシメ教育  
者タル精神ヲ養ハンコトヲ旨トシ理論ニ偏シ高遠ニ馳スルカ如  
キコトナカランコトヲ要ス實地授業ニ就キテハ各學科目ノ教員  
常ニ巡視シテ其適否ヲ批評シ又時々自ラ教授シテ之カ摸範ヲ示  
スヘシ

實地授業ノ每週教授時間ハ之ヲ前半年又ハ後半年ニ纏メ三十時  
トシテ課スルコトヲ得此場合ニ於テハ國語以下ノ學科目ハ其第  
四學年ノ每週教授時間ヲ他ノ半年ニ纏メテ教授スヘシ

三國語

第一學年 每週四時

講讀 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

受 檢 者 必 携

文法 音韻ノ性質假名ノ用法言語ノ種類文章ノ諸規則ヲ授ク  
作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ依リ日用書類記事文等ヲ作ラ  
シム

第二學年 每週二時

講讀 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準シ更ニ論說文等ヲ作ラシメ兼子テ簡易ナル漢  
文ヲ國文ニ翻譯セシム

第三學年 每週二時

文學史ノ大要 片假名平假名ノ起源ヨリ國文學ノ發達變遷ノ要  
略ヲ授ケ古今諸體ノ文章及歌ノ中標準トナルヘキモノヲ講讀セ  
シム

作文 前學年ニ準ス

受 檢 者 必 携

讀書作文ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

國語ヲ授クルニハ講讀ハ發音及句讀ニ注意シ通讀ノ際讀者及聽  
者ヲシテ文勢文意ヲ會得セシメンコトヲ務メ文法ハ言語又ハ文  
章ヲ以テ正確ニ思想ヲ表彰セシメンコトヲ旨トシ作文ハ文法ニ  
隨ヒ簡明著實ニシテ達意ヲ旨トシ文題ハ博ク各學科目ニ於テ授  
ケタル事項及日常必須ノ事項ニ就キ務メテ實用ニ適スルモノヲ  
撰フヘシ

四漢文

第二學年 每週二時

經史記傳論說等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第三學年 每週二時

經史記傳論說等ノ中雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

第四學年

每週二時

九十六

前學年ノ續

漢文ヲ授クルニハ殊ニ思想及事實ヲ精細ニ記述シタル文章ヲ授ケ音訓ヲ正シクシ句讀ニ注意シテ句意章意ヲ明カニシ兼テ文理結構ヲ講究セシメ又時々簡單ナル國文ヲ漢文ニ翻譯セシムヘシ

五歷史

第一學年

每週二時

日本歷史 建國ノ體制 皇統ノ無躬

歷代天皇ノ盛業忠良賢哲ノ事蹟學術技藝ノ隆替武備ノ張弛政治ノ沿革農工商業ノ發達風俗ノ變遷等ニ關スル事項ヲ授ク

第二學年

每週二時

日本歷史 前學年ノ續

受 檢 者 必 携

外國歷史 支那歷史ノ大要ヲ授ケ次ニ上古ノ著名ナル諸外國ノ

歷史ニ移リ其重要ナル事項ヲ授ク

第三學年

每週二時

外國歷史 諸外國ノ中古近世ノ歷史中重要ナル事項ヲ授ク

歷史ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

歷史ヲ授クルニハ務メテ事實ノ關係ニ注意シ文化ノ由來スル所

ヲ辨ヘシメ殊ニ我國體ヲ明カニシテ尊王愛國ノ志氣ヲ振起セシ

メ以テ國民タル志操ヲ養成センコトヲ務ムヘシ

六地理

第一學年

每週二時

總論及日本地理 地球及其表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態等ノ要略ヲ授ケ次ニ日本地理ニ移リ畿内八道ノ地理ヲ授ケ兼テ

○第五款 雜

九十七

受 檢 者 必 携

地圖ヲ描カシム

第二學年

每週二時

外國地理 諸外國ノ地理ヲ授ケ兼テ地圖ヲ描カシム

第三學年

每週一時

地文 地球ト諸天體トノ關係ヨリ始メ地球ノ構造陸水氣象生物ノ分布等ノ要略ヲ授ク

地理ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

地理ヲ授クルニハ人生ニ適切ナル事項ヲ知ラシムルヲ主トシ外國地理ヲ授グルニハ本邦ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ヲ詳ニ

シテ其他ヲ略ニシ地文ハ成ルヘク本邦ノ事實ニ依リテ之ヲ授ク

ハシ

七數學

受 檢 者 必 携

第一學年

每週四時

算術 筆算ハ整數分數小數ノ命數記數及加減乘除並比例百分算ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム

幾何 定義公理直線ヲ授ク

第二學年

每週四時

算術 筆算ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算ハ前學年ニ準ス

簿記 諸帳簿ノ用法豫算表決算表ノ製式等ヲ授ク

幾何 圓面積比例ヲ授ク

第三學年

每週三時

代數 記法符号加減乘除分數一次方程式ヲ授ク

幾何 立體幾何ノ初歩ヲ授ク

算術及幾何ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

受 檢 者 必 携

第四學年

每週二時

代數 二次方程式比例級數對數複利ヲ授ク  
算術及幾何ヲ教授スル順序方法ヲ授ク  
數學ヲ授クルニハ算術ハ精密ニ之ヲ授ケテ運算ノ理由ヲ詳ニシ  
兼テ速算ニ習熟セシメ代數ハ成ルベク高遠ニ馳セス主トシテ其  
數理上ノ問題ノ解法ヲ簡明ニスルニ益アルコトヲ知ラシメ幾何  
ハ論理ヲ詳ニシ兼テ測量求積法等ノ實用上ニ應用セシムヘシ

八物理化學

第一學年

每週二時

物理 力學音熱ヲ授ク

第二學年

每週二時

物理 熱ノ續及光ヲ授ク

受 檢 者 必 携

化學 無機化學中重要ナル諸元素及其化合物ヲ授ク

第三學年 每週三時

物理 電氣磁氣ヲ授ク

化學 前學年ノ續

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第四學年

每週二時

化學 有機化學ノ初歩及實用上重要ナル有機物ヲ授ク

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

物理化學ヲ授クルニハ實驗ニ基テ正確ナル知識ヲ得シメ近易ナ

ル現象ヲ理會スルノ力ヲ養ヒ日常ノ生活及生業上ニ資スルニ適

セシメンコトニ注意スヘシ

九博物

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

百二

第一學年 每週二時

植物 形態構造生理分類効用ヲ授ク

動物 形態構造生理習性特質分類効用ヲ授ク

第二學年 每週二時

植物 前學年ノ續

動物 前學年ノ續

第三學年 每週二時

人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク

礦物 重要ナル礦物ノ形像性質現出法効用鑑識法ノ要畧ヲ授ク

理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

博物ヲ授クルニハ實物標本等ニ就キ正確ナル知識ヲ得セシメ又

動物植物ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ審カニシ日常ノ生活及生

受 檢 者 必 携

十習字

第一學年 每週二時

楷書ヲ授ク

第二學年 每週二時

楷書及行書ヲ授ク

第三學年 每週一時

行書草書及假名ヲ授ク

習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

習字ヲ授クルニハ先ツ姿勢執筆ノ法ヲ教ヘ次ニ筆ノ運用字ノ結

構ヲ知ラシメ字形端正ニシテ運筆澁滯セサランニトテ旨トシ兼



受 檢 者 必 携

十一 圖畫

テ細字ノ速寫及黑板上ニ書スルコトニ習熟セシムヘシ

第一學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ兼テ用器畫ノ大要ヲ授ケ

第二學年 每週二時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

實物模型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ケ

圖畫ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

第四學年 每週一時

前學年ニ準ス

圖畫ヲ授ケルニハ位置形狀濃淡等其宜キヲ得シムルヲ主トシ時

受 檢 者 必 携

十二 音樂

々自己ノ意匠ヲ用ヒテ圖案セシメ又便宜彩色ノ法ヲ授ケ

第一學年 每週一時

單音唱歌ヲ授ケ

第二學年 每週一時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

單音唱歌複音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ケ

唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ケ

第四學年 每週二時

前學年ニ準ス

音樂ヲ授ケルニハ歌詞樂譜ノ高雅純正ニシテ教育上裨益アルモ

ノニ就キテ練習セシメ兼テ音樂上ノ名稱記号等ノ要略及歌詞ノ  
意義ヲ知ラシムベシ

十三體操

第一學年 每週六時

普通體操 準備法矯正術徒手啞鈴等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 各個教練柔軟體小隊教練及器械體操ヲ授ク

第二學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準シ更ニ球竿棍棒等ノ諸體操ヲ授ク

兵式體操 前學年ニ準シ更ニ中隊教練銃劍術野外演習及兵學大

意ヲ授ク

第三學年 每週六時

普通體操 前學年ニ準ス

受 檢 者 必 携

兵式體操 前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

體操ヲ授クルニハ規律嚴正姿勢整齊意氣充實運動活潑ナラサラ

シメンコトヲ務メ土地ノ情況ニ依リ水泳ヲ練習セシムヘシ

十四外國語

第一學年 每週二時

讀方譯解文法會話及習字ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ノ續

第三學年 每週三時

讀方譯解修辭及作文ヲ授ク

第四學年 每週三時

第五款 雜

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

前學年ノ續  
外國語ヲ教授スル順序方法ヲ授ク  
外國語ヲ授クルニハ常ニ發音及讀方ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒ  
テ之ヲ譯解セシメ又時々翻譯ヲナサシムヘシ  
十五農學

第一學年 每週二時

土壤水利肥料農具耕耘栽培等ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ノ續

第三學年 每週三時

耕耘栽培養蠶養畜等ヲ授ク

第四學年 每週三時

受 檢 者 必 携

前學年ノ續及農家經濟ノ大要ヲ授ク  
農業ヲ教授スル順序方法ヲ授ク  
農業ヲ授クルニハ其地方ニ適切ナランコトヲ主トシ農業練習場  
等ニ於テ之ヲ實習セシメ農業ノ要旨ヲ覺リ實業ノ趣味ヲ養ハシ  
コトヲ務ムヘシ  
土地ノ情況ニ依リ農業ノ程度ヲ斟酌シテ山林水産ニ關スル事項  
ヲ授クヘシ

十六商業

第一學年 每週二時

經濟ノ大要ヲ授ク

第二學年 每週三時

商業ニ關スル習慣法令等ニ基キ商店會社賣買金融運送保險等ニ

受 檢 者 必 携

關スル事項ヲ授ク

第三學年 每週三時

前學年ノ續及重要ナル商品商用作文商用簿記ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ノ續

商業ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

商業ヲ授クルニハ常ニ商況相場等ニ注意シテ實際ノ業務ニ適應

セシメントヲ務メ又便宜營業取引ノ方法ヲ實習セシムヘシ

十七手工

第一學年 每週二時

木竹ノ細工ヲ授ク

第二學年 每週三時

受 檢 者 必 携

前學年ニ準ス

第三學年 每週三時

木竹及普通金屬ノ細工ヲ授ク

第四學年 每週三時

前學年ニ準シ更ニ紙細工粘土細工ノ大要ヲ授ク

手工ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

手工ヲ授クルニハ精緻ヲ主トシ手工ノ要旨ヲ覺リ作業ノ趣味ヲ

養ハンコトヲ務メ模本ハ其地方ニ適切ナルモノヲ撰ヒ兼子テ材

料ノ品質用具ノ保存方等ヲ知ラシムヘシ

第十一條 尋常師範學校ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ノ程度ハ左ノ如

シ但教授上注意スヘキ事項ニ關シテハ前條ノ規程ニ準ス殊ニ教授

ハ能ク女子ニ適應セシムルヲ旨トシ教授ノ事項ノ撰擇ニ注意セン

受 檢 者 必 携

コトヲ要ス  
一 修身

第一學年 每週二時

教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キ人倫道德ノ要領ヲ授ケ兼テ作  
法ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準ス

第三學年 每週二時

前學年ニ準シ較々詳ニ人倫道德ノ要領ヲ授ク

修身ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

修身ヲ授クルニハ殊ニ本邦女子ノ職分習慣等ニ注意シ貞淑ノ美  
徳ヲ涵養センコトヲ要ス

受 檢 者 必 携

二 教育

第一學年 每週二時

教育史 内外國教育ノ沿革及著名ナル教育家ノ傳記主義方案ノ  
要略ヲ授ク

第二學年 每週二時

教育ノ原理 教育ノ目的及智育德育體育ヲ授ク

前半年 教育ノ原理 每週四時

第三學年 教育法令及  
學校管理法 每週二時

後半年 實地授業 每週三十時

教育ノ原理 前學年ノ續及教授ノ原則保育ノ方法ヲ授ク

教育法令及學校管理法 教育ニ關スル現行ノ法令規則ニ基キ學  
校ノ設置編制設備管理經濟衛生等ノ方法ヲ授ク

受 檢 者 必 携

實地授業 附屬小學校ニ於テ兒童教育ノ方法ヲ練習セシム  
又便宜幼兒保育ノ方法ヲ練習セシム

三國語

第一學年 每週四時

講讀 平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

文法 音詔ノ性質假名ノ用法言語種類文章ノ諸規則ヲ授ク

作文 文題ヲ與ヘ平易ナル文體ニ依リ日用書類記事文等ヲ作ラ

シム

第二學年 每週三時

講讀 中古以降ノ雅馴ナル文章及歌ヲ講讀セシム

作文 前學年ニ準ス

第三學年

每週三時

此時間ハ前半ノ教授時間トス以下第  
三學年ノ每週教授時間ハ皆之ニ同シ

受 檢 者 必 携

文學史ノ大要 片假名平假名ノ起原ヨリ國文學ノ發達變遷ノ要  
略ヲ授ケ古今諸體ノ文章及歌ノ中標準トナルヘキモノヲ講讀セ  
シム

作文 前學年ニ準ス

讀書作文ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

四漢文

第一學年 每週二時

經史記傳等ノ中平易ニシテ雅馴ナル文章ヲ講讀セシム

第二學年 每週二時

前學年ノ續

第三學年 每週二時

前學年ノ續

第五款 雜

受 檢 者 必 携

五 歷 史

第一學年 每週二時

本邦建國ノ體制 皇統ノ無窮

歷代天皇ノ 盛業忠孝貞淑ノ事蹟學術技藝ノ隆替風俗ノ變遷等

ニ關スル事項ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ノ續

第三學年 每週二時

外國歴史ノ大要ヲ授ク

歴史ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

六 地 理

第一學年 每週二時

地球及其表面ノ形狀氣候人種人民生活ノ狀態ノ要略ヲ授ケ次ニ

日本地理ニ移リ畿内八道ノ地理ヲ授ケ兼子テ地圖ヲ描カシム

第二學年 每週二時

外國地理ノ大要ヲ授ケ兼子テ地圖ヲ描カシム

第三學年 每週一時

地文ノ大要ヲ授ク

地理ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

七 數 學

第一學年 每週三時

算術 筆算ハ整数分數小數ノ命位記數及加減乘除並比例百分算

ヲ授ケ珠算ハ加減乘除ヲ授ケテ之ヲ練習セシム

第二學年 每週三時

第五款 雜

受 檢 者 必 携

算術 筆算ハ比例百分算開平開立ヲ授ケ珠算ハ前學年ニ準ス  
 幾何ノ初步 線角面體ノ種類性質關係等ヲ授ク  
 第三學年 每週二時  
 幾何ノ初步 前學年ノ續  
 算術及幾何ヲ教授スルノ順序方法ヲ授ク  
 八理科  
 第一學年 每週二時  
 博物 植物及動物ノ重要ナル種類ニ就キ形態構造生理効用等ノ  
 要略ヲ授ク  
 第二學年 每週三時  
 物理化學 物理ハ力學音熱光電氣磁氣ノ要略ヲ授ケ化學ハ無機  
 化學中重要ナル諸元素及其化合物ヲ授ケ兼テ化學ヲ教授スル際

受 檢 者 必 携

重要ナル鑛物ノ形像性質等ヲ附記スヘシ  
 第三學年 每週三時  
 人身生理 身體ノ構造生活ノ機能及衛生上重要ナル事項ヲ授ク  
 理科ヲ教授スル順序方法ヲ授ク  
 九家事  
 第一學年 每週六時  
 衣食住ニ關スル事項及裁縫ヲ授ク  
 第二學年 每週六時  
 前學年ニ準ス  
 第三學年 每週六時  
 育兒ニ關スル事項家計簿記裁縫ヲ授ク  
 裁縫ヲ教授スル順序方法ヲ授ク



家事ヲ授クルニハ一家ノ整理經濟等ニ關シ重要ナル事項ヲ授ケ  
成ルヘク之ヲ實習セシメ務メテ實用ニ適セシメンコトニ注意ス  
ヘシ

十習字

第一學年 每週二時

楷書及行書ヲ授ク

第二學年 每週二時

行書及假名交リ草書ヲ授ク

第三學年 每週二時

假名交リ草書ヲ授ク

習字ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十一圖書

受 檢 者 必 携

第一學年 每週二時

實物摸型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

第二學年 每週二時

前學年ニ準シ更ニ用器畫ノ大要ヲ授ク

第三學年 每週二時

實物摸型手本ニ就キテ自在畫ヲ授ク

圖書ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十二音樂

第一學年 每週二時

單音唱歌ヲ授ク

第二學年 每週二時

單音唱歌複音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ク

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

第三學年 每週二時

前學年ニ準ス

唱歌ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

十三體操

第一學年 每週三時

普通體操及遊戲ヲ授ク

第二學年 每週三時

前學年ニ準ス

第三學年 每週三時

前學年ニ準ス

體操ヲ教授スル順序方法ヲ授ク

第十二條 第十條及第十一條ノ學科目ノ程度ハ土地ノ情況ニ依リ北

受 檢 者 必 携

海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ斟酌スルコトヲ得

(備考)

◎本令ニ基キ文部省ニ於テ地方當局者ノ參考ニ便センカ爲ニ學科目ノ程度ヲ一表ニ調製セラレタルモノ左ノ如シ

受 檢 者 必 携

尋常師範學校學科課程表

男生徒ニ課スベキ分

計	手工	商業	農業	外國語	體操	音樂	圖書	習字	博物	物理	數學	地理	歷史	漢文	國語	教育	修身	學科	學年
																		科目	年
三四	二				六	一	二	二	三	二	四	二	二		四	二	二	第一學年	時間 每週
	木、竹、細工	經濟ノ大要	肥料、農具、耕耨、栽培等	土壌、水利、肥田、農具、肥料、栽培等	讀方、譯解、文法、會話、習字	普通體操	兵式體操	單音唱歌	自用器畫	楷書	植物學	幾算何術	日本地理	日本歷史	作文講讀	教育史	人倫道德ノ要領	第二學年	時間 每週
三四	三				六	一	二	二	二	二	四	二	二	二	二	二	二	第二學年	時間 每週
	木、竹、細工	商店、賣買、運送、保險等	肥料、農具、耕耨、栽培等	土壌、水利、肥田、農具、肥料、栽培等	讀方、譯解、文法、會話、習字	普通體操	兵式體操	單音唱歌	自用器畫	行楷書	植物學	幾算何術	外國地理	日本歷史	講讀	教育ノ原理	人倫道德ノ要領	第三學年	時間 每週
三四	三				六	二	二	一	二	三	三	一	二	二	二	三	二	第三學年	時間 每週
	木、竹、普通金屬ノ細工	商店、賣買、運送、保險等	肥料、農具、耕耨、栽培等	土壌、水利、肥田、農具、肥料、栽培等	讀方、譯解、修辭、作文	普通體操	兵式體操	單音唱歌	自用器畫	行楷書、假名	植物學	幾算何術	外國歷史	講讀	教育ノ原理	人倫道德ノ要領	第四學年	時間 每週	
三四	三				三	二	一			二	二			二	一五	二	二	第四學年	時間 每週
	木、竹、普通金屬ノ細工	商店、賣買、運送、保險等	肥料、農具、耕耨、栽培等	土壌、水利、肥田、農具、肥料、栽培等	讀方、譯解、修辭、作文	普通體操	兵式體操	單音唱歌	自用器畫	行楷書、假名	植物學	幾算何術	外國歷史	講讀	教育ノ原理	人倫道德ノ要領	合計時間	教授	
	四、五	〇	四、五	一三五	二二	六	七	五	七、七、五	九	一三	五	六	六	八	二四	八	合計時間	教授
					二二	六	一〇		七、七、五	九	一一	九	五	四	二六	三、五	合計時間	教授	

尋常師範學校學科課程表

女生徒ニ課スヘキ分

計	體操	音樂	圖畫	習字	家事	理科	數學	地理	歷史	漢文	國語	教育	修身	學年		
														時間	每週	
三四	三	二	二	二	六	二	三	二	二	二	四	二	二	第一學年	時間	每週
	遊普通體操	單音唱歌	自在畫	楷行書	衣食住ノ關係 裁縫	動植物	算術	總本地理論	日本歷史	講讀	作文講讀	教育史	人倫道德ノ要 領法	第一學年		
三四	三	二	二	二	六	三	三	二	二	二	三	二	二	第二學年	時間	每週
	遊普通體操	單音唱歌 複音唱歌 樂器用法	自在畫	假名交ノ草書	衣食住ノ關係 裁縫	物學	算術ノ初步	外國地理	日本歷史	講讀	作文講讀	教育ノ原理	人倫道德ノ要 領法	第二學年		
三四	三	二	二	二	六	三	二	一	二	二	三	四	二	第三學年	時間	每週
	遊普通體操	單音唱歌 複音唱歌 樂器用法	自在畫	假名交ノ草書	裁縫 育兒、簿記	人身生理	算術ノ初步	日文ノ大要	外國歷史ノ大要	講讀	作文講讀	教育ノ原理	人倫道德ノ要 領法	第三學年		
三四												三、〇	二	第四學年	時間	每週
												實地授業	人倫道德ノ要 領法	第四學年		
	七、五、七、五	五	五	五	一五	六、五、七、五	七、七、五	四、五	五	五	八、五	二、二	六	合計	時間	每週
		五	八、五	一〇				七		〇	一一	二、五	二、五	計	時間	每週

受 檢 者 必 携

市立大阪高等女學校附屬保姆養成科學科課程表左ノ如シ(明治二十五年七月改正)

學科		學期		附屬保姆養成科學科課程表	
		每週 教授 時數	第一 二期		
倫理	一	一	人倫道德ノ要旨	全	第一 二期
教・育	二	二	教育ノ真理及智徳 體三育ノ豫習	全	上
保育法	一〇	六	恩物其他保育科ノ 豫習保育ノ原則并 方法	全	上
管理法	二	三	幼稚園ノ編制、園 舎ノ整理、表簿ノ 編製、幼兒ノ管理	全	上

○第五款 雜

百二十五

携 必 者 檢 受

實地保育	國語	理・科	圖畫	音樂	自習	合計
	六	三	三	六	△三	△三一
	讀書漢字交り文 作文日用文近体文 言語ノ練習	鑛物及植物ノ 大意	自在畫	單音唱歌 樂器使用法	保育科中製作 物ノ調製、音 樂ノ自習	
三	四	三	三	五	△五	△二九
實地保育ノ參 觀助手	全	動物、生理、 衛生ノ大意	自在畫黑板畫	全	全	
二	二	二	二	四	△六	△二八
實地保育助手	全	理化ノ大意	黑板畫	全	全	
二	上			上	上	
實地保育練習				二	△一〇	△二四
				全	全	
				上	上	

本科修業年限ハ二ケ年ニシテ一ケ年ヲ二期ニ分テリ

携 必 者 檢 受

大阪府訓令第八一号 (明治廿二年十一月三十日)

郡 市 役 所

幼稚園若クハ小學校保育科ハ左ノ要綱ニ從ヒ學力品行等査定ノ上知事ノ認可ヲ經テ六ヶ月以上一ケ年以下ノ間保母助手見習生ヲ置ク事ヲ得

- 一 身體強健ナルモノ
- 一 品行端正ナルモノ
- 一 小學高等科第一年生以上ノ學力ヲ有スルモノ

(英語体操ノ兩科ヲ除ク)

一年齡滿十七歲以上ノモノ

小學校教員及幼稚園保母助手等ノ檢定ヲ請ハントスルモノハ豫メ能ク自ラ志ス所ノ種類ニ相當スル學科ヲ講究シ以テ其素地ヲ作ラサルヘカラス依テ爰ニ志望者ノ講究シテ可ナルヘシト思料スル書目ヲ掲ケテ參考ニ供ス

一修身

勅語衍義 那珂通世著 實踐道德學 能勢榮著

一教育

教育學 久保田貞則著 管理法 峯是三郎編纂

教授法 中村五六 木下邦昌 合編

一國語

かなつかひ教科書

てにをば教科書

語法指南

國文讀本 橋本光秋 小田清雄 合編

受 檢 者 必 携

一漢文

漢文教科書 深井盛一郎 堀持次郎 合編 東萊博議

一地理

日本地理 中村五六編 萬國地理 中村五六編

一歴史

中等教育日本歴史 萩野由之助編

一物理

新編物理學 木村駿吉著

一化學

布氏小化學書 敬業社譯補

一動物

中等教育動物學 岩川友太郎編

受 檢 者 必 携



受 檢 者 必 携

- 一 植物
- 中等教育植物學 齋田功太郎編
- 一金石
- 金石學 敬業社出版
- 一 生理
- 生理學教科書 片山正義譯
- 一 算術
- 近世算術 上野清編纂
- 一 代數
- 近世代數 全上
- 一 幾何
- ウキルソン幾何學 眞野肇譯

附

明治二十六年七月大阪府ニ於テ施行アリシ小學校教員檢定試験ノ問題數種ヲ左ニ掲ケ以テ大阪府ノ檢定試験程度ノ一斑ヲ知ルノ便ニ供ス

高等小學校本科正教員

修身科

- (1) 理論道德學ト實踐道德學トノ相關スル所ヲ論スベシ
- (2) 公德ト私徳トノ區別ヲ論スヘシ
- (3) 道德ノ制裁中如何ナル制裁ニヨリテ我身ヲ處スル人ニシテ君子能慎其獨ノ徳ニ適フヲ得ヘキカ其然ル所以ヲ論明スベシ
- (4) 尙武ノ氣風ヲ養成スルニハ如何ナル氣質ヲ訓練スヘキカ
- (5) 勅語ニ常ニ國憲ヲ重ンシト宣ハセタリ我帝國憲法ハ六章ト補則

一章トヨリナレルガ第一章ヨリ第六章ニ至ルマデ各章ノ要領ヲ述フベシ

教育科

教育ノ原理

- (1) 智情意ノ原性ヲ論明スベシ
- (2) 概念力ノ用ヲ述ヘ其教育法ヲ論ズベシ
- (3) 歸納推理ノ五法ヲ例ヲ以テ説明スベシ
- (4) 訓練ノ德育ニ關シテ大切ナル所以ヲ述フベシ
- (5) 唱歌ノ教育上ノ價值ヲ論ズベシ

教育史

- (1) 古代ノ印度教育ノ主義如何
- (2) アゼン及スバルタ教育ノ差異及其教育ノ結果如何

受 檢 者 必 携

- (3) ベスタロツジノ略傳ヲ記セ
- (4) 我國舊幕府時代ノ教育ノ概況ヲ述ブベシ

授業法

- (1) 教授ニ興味ノ必要ナル所以ヲ論セヨ
- (2) 思想分解及思想總合トハ如何例ヲ舉ケテ之レヲ述ベヨ
- (3) 修身科教授ノ順序如何
- (4) 復文法トハ如何
- (5) 小學校ニ於ケル歴史教授ノ目的ヲ問フ
- (6) 小學校ニ於テ教授スルトコロノ圖畫ノ種類ヲ舉ゲテ之レヲ説明セヨ

管理法

- (1) 生徒百人ヲ容ルベキ單級教場ヲ新築セントス其構造法ヲ詳述ス

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

ベシ

但シ平面圖ヲ畫キ机卓ノ並ベ方黑板ノ位置ヲモ記載シ總テ其理由ヲ述フベシ

(1) 町村ヲシテ學校ノ設置若シクハ兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免レシムル場合ト并ニ郡費ヲ以テ之レヲ補助スベキ場合トヲ舉ケヨ

(2) 學校ニ關シ町村吏員ト學校長トノ職務ノ區別並ニ其互ニ相關聯スル所ヲ述フベシ

國語科

(一) 遠江、淡路、大阪、位、故、萌、黃、桶、音、雉、蚯蚓、の假字(訓)如何

(二) 係結とは如何なるものヲ例を舉げて詳にこれを述べよ

(三) 代名詞を明に述べよ

(四) 動詞(作用言)の種類を問ふ

(五) 左の傍線の處を解きて全文の意を略述せよ

和泉式部保昌か妻にて、丹後に下りける程に、歌あはせありけるに、小式部の内侍、歌よみにとられけるを、定頼の中納言、たはふれに小式部の内侍、丹後へつかはしける人は、参りにたるにや、と言ひ入れて、局のまへを過ぎられけるを、小式部の内侍、御簾より半いで、中納言の袖をひかへて、

大江やまいくの、道のとほければまだふみも見ず天の橋だて  
とよみかけり。思はずにあさましく、こはいかにとばかりいひて  
かへしにも及ばず袖を引き放ちて、にげられにけり。これより、歌よ  
みの世のおぼぬいで來にけり。

作文

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

紀元節の祝辭 平易雅訓なる國文  
朋友の遊惰を忠告する書狀

漢文科

百三十六  
三百字以上  
二百字以上

(1) 左氏謂畏楚爲量力不知適所以墮入之力也古人之所謂量力者蓋有說矣養而未充也爲而未成也修而未備也於是量力而未敢輕動焉所憂固在於已而不在於人也養已充爲已成修已備有所不動無敵矣苟以驕醜自保爲量力則人將自安於弱而終於弱矣自安於愚而終於愚墮天下之力者非量力之論歟

(2) 賴襄曰國朝之服三韓洵不世之功也然爾後我所以爲務者在於三韓闕貢則不得不責責而不服則不得不伐如騎虎之勢不可中下是以上古之史三韓之事居半焉蓋將卒疲於奔命農民困於糧餉矣左右點ヲ付ケテ且ツ講義セヨ

作文

學ノ要ハ精熟ニアル説

漢字交リ

三百五十字ヨリ四百字マテ

數學科

筆算

(1) 常分數ノ分母子ニ同數ヲ加フレバ其值ハ前ヨリ増シ分母子ヨリ同數ヲ減ズレバ其值ハ前ヨリ減ズ而シテ假分數ハ之ニ反スルノ理由ヲ示セ

(2) 兩人月入ヲ算スルニ甲五ヶ月乙三ヶ月ノ入金合セテ三百四十八円若シ月ヲ交換スレバ其和三百二十四円ナリ各如何

(3) 兩人等金ヲ所持ス若シ甲ニ十三円ヲ加ヘ乙ヨリ二十七円ヲ減ズレバ四ト三ノ比トナルベシ各所持金如何

○第五款 雜

百三十七

受 檢 者 必 携

百三十八

- (4) 漕船遠航ヲナサントシ飲水三百五十石ヲ貯ヘ毎日一人ニ付四合九勺ツ、ヲ與ヘテ五ヶ月ノ貯ヘアリ今更ニ百五十石ノ水ヲ増入シテ猶二ヶ月ノ航海ヲセンニハ毎日一人ニ幾何ノ水ヲ與フベキヤ
- (5) 甲桶ニ酒水ノ比三ト二ノ如ク乙桶ニ酒水ノ比四ト五トノ如ク入レ置ケリ今各ヨリ若干ヲ出シテ之ヲ混合シ酒水ノ比十七ト十六ノモノ一石三斗二升ヲ作ラントス各桶ヨリ出ス所ノ量如何
- (6) 金若干円ヲ年利四分半ニテ三年間貸スニ重利ニテ算スルト單利ニテ算スルト其利金ノ差八十七円五十錢ナリ然ルトキハ其原金幾何
- (7) 直方鉢アリ上下兩底ノ面積各四百五平方寸左右ナル面積各三百平方寸前後ナル面積各二百四十平方寸ナリ由テ問フ此鉢積幾何

右三時間ヲ限ル

珠算

- (1) 金四万八千七百六十円ヲ所有スル人アリ内左ノ金高ヲ貸附ルルハ殘金幾何  
 金三千七百五十円、八百七十三円七十二錢、二万三千九百円七十八錢、八千五百六十円九十五錢、二十三円八十錢六厘、二千円三十七錢九厘
- (2) 八十七個三分八厘五毛ト四十六個七分二厘ノ差ニ三百六十個九分八厘ヲ加ヘ之ヲ四千三百九十八倍セバ如何
- (3) 金三十七円六十錢五厘ト八百七十円四十八錢ト二千七百円三十三錢九厘トノ和ヲ五万八千七百分セバ如何  
 但商忽位マデヲ要ス

○第五款 雜

百三十九

- (4) 或入六十九里十三町五十二間ノ所ニ達センニ平均毎日八里二十四町十四間ヅ、歩ミシト云フ此費セシ日數幾何  
右一時間ヲ限ル

幾何

- (1) 兩三角形アリ其一形ノ二角他ノ一形ノ二角ニ各互ニ相等シク而シテ相等シキ角ニ對スル一邊各互ニ相等シキハ此兩三角形ハ全等形ナリ其理如何
- (2) 同一直線上ニ在ラザル三個ノ與點ヲ貫ク円周ハ唯一個ナリ其証ヲ求ム
- (3) ABCナル三角形ノAC邊中ニA'點ヲ取リAA' = BB'トシB'點ヲCB邊ノ延長線中ニ取ルキハABハA'B'ヲ截テCB:CAナル比ヲ有スルニ分線トス其證如何

携 必 者 檢 受

右一時三十分ヲ限ル

代數

- (1)  $x^3 + px^2 + r^3x^2 + p$ ガ通因子ヲ有スルキ  $\frac{p^3}{27} + \frac{r^2}{4} = 0$ ナルヲ示セ
- (2)  $\frac{2}{x+2} - \frac{x-3}{x^2-2x+4} - \frac{1}{x^3+3}$  最簡ニセヨ
- (3)  $\frac{x}{2} + \frac{y}{3} + \frac{z}{4} = 62, \frac{x}{3} + \frac{y}{4} + \frac{z}{5} = 47, \frac{x}{4} + \frac{y}{5} + \frac{z}{6} = 38$ , 未知元ノ値ヲ求ル
- (4) 甲乙ノ牧者共ニ牧圃ヲ借り互ニ約シテ曰ク此圃中畜フ所ノ走獸ノ數ニ應シテ各々地稅ヲ償フベシト而シテ初メ甲ハ馬四頭ヲ畜乙ハ馬若干ヲ畜テ週稅十八錢ヲ出ス此後乙ハ畜馬ノ數ニ頭ヲ増シテ週稅二十錢ヲ出スト云フ由テ問フ此牧圃ノ週稅幾何

○第五款 雜

携 必 者 檢 受

右一時三十分ヲ限ル

簿記科

(1) 單記式元帳ト複記式元帳トニ於テ其差異ノアル處ヲ示セ

(2) 左ノ取引ヲ複記式日記帳及仕譯帳ヘ記入スベシ

七月一日 營業主岩永勝巳金高五千円ノ商品ヲ以ツテ商賣ヲ始

ム

全 二日 中井恒介ヘ砂糖一斤十二錢替ニテ二千七百八十斤賣

渡シ代金トシテ全人仕出シ本日附六十日限仕拂ノ手

形ヲ受取

全 三日 津田茂理ヨリ豕鹽漬一桶十三円替ニテ三百五十桶買

入レ右代金トシテ當店仕出シ本日附三十日限仕拂ノ

手形ヲ渡ス

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

全 四日 松本福昌ヘ豕鹽漬一桶十三円五十錢替ヲ以テ七十八

桶ヲ掛ニテ賣渡ス

全 五日 安部昇ヨリ糖蜜壹斤七十八錢替ニテ二百三十六斤ヲ

掛ニテ買入ル

全 六日 佐藤光作ヘ砂糖一斤十二錢替ニテ八百四十斤糖蜜一

斤八十六錢替ニテ五十三斤ヲ現金ニテ賣渡ス

全 七日 手代給金并ニ店賃八十七円現金ニテ拂フ

右二時間ヲ限ル

地理科

日本地理

(一) 氣候風ノ本邦ニ及ボス影響如何

(二) 瀬戸海沿岸ニ鹽田ノ多キ理由如何

○第五款 雜

携 必 者 檢 受

- (三) 本府管内ノ國郡ヲ略圖シ著名ノ山川都邑ヲ記セ
- (四) 本邦ノ物産中主ナル貿易品ヲ擧ケ其販路ヲ示セ
- (五) 陸軍師團鎮守府及ヒ控訴院ノ所在地ヲ記セ

外國地理

- (一) 政体ノ種類ヲ列記シ且支那ハ何レノ政体ニ屬スルカヲ述ベヨ
- (二) 太平洋ト加利比安海ヲ連絡スルニ尼加拉瓦國ニ運河ヲ起スノ便ナル所以如何

- (三) 歐州大陸中十大國ノ國名ト首都ヲ記載セヨ

- (四) 澳斯太刺利亞(濠洲)ノ地勢ト著名ナル物産ヲ問フ

歴史科

日本之部

- (一) 佛敎渡來後其我國ニ及ボシ、影響ヲ問フ

携 必 者 檢 受

- (二) 武士道發達ノ由來ヲ問フ
- (三) 徳川氏ノ時代國學ノ隆盛ニ赴キシ有様ヲ問フ
- (四) 臺灣征伐ノ顛末ヲ問フ
- (五) (1) 行守及文武兼官ノ書方ヲ問フ

- (2) 左ノ解釋ヲ問フ

押領使 犬追物 ウケヒ 髻華

外國ノ部

- (一) 長髮賊ノ亂ヲ説明セヨ
- (二) 羅馬帝國分裂以後西羅馬ノ滅亡ニ至ルマデノ國勢ヲ問フ
- (三) 十字軍ノ結果ヲ問フ
- (四) 十六世紀ニ於ケル宗教改革ノ起リシ原因及其結果ヲ問フ
- (五) 合衆國南北戰爭ノ概略ヲ問フ



(各題共其年代ヲ問フ)

博物科

- (1) 動物ト植物トノ區別ヲ問フ
- (2) 昆虫類口部ノ附屬品ヲ問フ
- (3) 魚類ト鯨トニ於ケル動物學上ノ異点ヲ問フ
- (4) 動物ノ呼吸作用トハ如何及ヒ其作用ノ必要ナル所以ヲ問フ
- (5) 人身ノ營養系統ヲ述ブベシ
- (6) 桃花ノ各機關ヲ畫キ各自其名稱ヲ記セ
- (7) 蜂窩組織(柔組織)硬組織(堅硬組織)ノ區別及其所在ヲ問フ
- (8) 葉綠トハ如何ナルモノナリヤ及其作用ヲ問フ
- (9) 此鑛物ハ何物ナルヤ鑑定ヲ下シタル要点ヲ述ブベシ

物理科

受 檢 者 必 携

- (一) 何故ニ動滑車ハ力ヲ省クベキカ
- (二) 近視眼ヲ治スルニ凹而レンズヲ用フル理如何
- (三) 空氣ナカリセバ音響ヲ生スルニ能ハザルカ
- (四) 絶緣線數十尺、磁針及紙製円規各一箇アリ、是レヲ以テ電流ノ方向ト強弱ヲ測定スル器械ヲ製作スルニハ何如ニシテ可ナルカ
- (五) 一大玻璃筒一箇、氷塊少許、試験管一箇及酒精燈一箇アリ、是レニヨリテ熱ノ對流ヲ説明セヨ

化學科

- (1) 氣壓及溫度ハ瓦斯ノ容量ニ如何ナル關係ヲ及ボス乎例ヲ舉ゲテ之レヲ説明スベシ
- (2) 水ノ性質ヲ問フ
- (3) 合金(錠)トハ如何ナルモノナリヤ其一般ノ性質及効用ヲ問フ

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

- (4) 酸、鹽基、鹽類ノ區別如何
- (5) 左ノ反應ヲ化學方程式ニテ説明スベシ

(イ) 石灰ト水ノ作用

(ロ) 鹽化バリウムト硫酸トノ作用

(ハ) 銅ト硝酸トノ作用

高等小學校本科男准教員

修身科

- (1) 自然制裁トハ如何ナル制裁ナルカ
- (2) 公德ト私徳トノ區別ヲ論スヘシ
- (3) 道德上ノ義務ハ絶對ナリト云フ所以ヲ説明スヘシ
- (4) 道德上ノ義務ヲ分類スヘシ
- (5) 國法ニ從フコトハ國民ノ義務タル所以ヲ論スヘシ

教育科

教授ノ原理

- (1) 智情意ノ相互ニ反對スル次第ヲ述フヘシ
- (2) 知覺力ノ用ヲ述ヘ其教育方ヲ論スヘシ
- (3) 智育結局ノ目的ヲ論シ其教育ニ關スル一般ノ方針ヲ述フヘシ
- (4) 徳性ヲ害スル感情ノ名目ヲ舉グベシ
- (5) 体育ト徳育トノ關係ヲ論ズベシ

授業法

- (1) 教授ト管理トノ關係ヲ論セヨ
- (2) 準備教授演習約習應用トハ如何詳ニ之ヲ説明セヨ
- (3) 讀書科ト作文科トノ關係ヲ論セヨ
- (4) 左ノ按分比例規則ヲ教授スルノ教案ヲ作レ

○第五款 雜

受 檢 者 必 携

管理法

- 各分ノ比ノ諸率ノ和ヲ以テ第一率ヲ除シテ總數ノ其一分ニ於ケル比トシ之レヲ總數ニ乘シテ一分ノ値トス
- (5) 圖畫科教授ノ目的ヲ問フ
- (1) 教師用ノ机ノ製法ハ如何其理由ヲモ併セ述ブベシ
- (2) 退場后生徒ヲ學校ニ留置ク時ニ當リ注意スベキ要点ヲ述ベヨ
- (3) 廊下ノ構造法ヲ記シ其理由ヲ述ブベシ
- (4) 褒狀ノ利益ハ如何

國語科

- (一) 虹、枝、親、弟、日向、帶、魚、鯉、家、瓦、の訓假字何如
- (二) 左の係結もしは誤を出せ
- (イ) 鶯のこゑは誠にめつらし、

受 檢 者 必 携

- (ロ) 夏のすゝみろ樂しかりけり
- (ハ) 秋の草木ころ風にしをるれ
- (ニ) 雪深き山里は誰か訪ひ來ん
- (三) 加行變格の變格たる故を述へよ
- (四) 左の傍線の處を解して全文の意を略述せよ
- わがあしき事は、知りがたく、人のあしきは能く見ゆるものなれば、  
人を見て、われにもさるたぐひの事やあると心とめて、思ふべ  
し、しかすればわかあしき事、しられぬべく、しるま、になほして、能  
くしたらんには、またみる人も、めやすくおもふべし。

作文

人の長壽を祝する書狀

二百字以上

漢文科

○第五款 雜

趙普初以吏道聞、寡學術、太祖嘗勸以讀書、普遂手不釋卷、每朝有大議、輒闔戶自啓一篋、取一書閱之、及卒、家人視其篋、則論語也、嘗謂上曰、臣有論語一部、以半部佐太祖、定天下、以半部佐陛下、致太平、蒙正晚出、嘗與普並相、普甚推之、蒙正(呂蒙正ノ)嘗置冊子夾袋中、疏四方人才姓名、以待選用、初太祖嘗以張齊賢屬上、至齊賢舉進士、上欲置之上第、而有司第其名在下、乃詔一榜、特與通判、卒至大用、呂端爲相、人謂呂相作事糊塗、上知之曰、端小事糊塗、大事不糊塗、

作文

終リテ慎ムヲ始ノ如クスヘキ說

漢字交リ

二百五十字ヨリ三百字マテ

數學科

携必者檢受

- (1) 除法ヲ用キスシテ123456789ヲ九除シタル殘ヲ求ム
- (2) 一家十七人ノ家族アリ其年齡合セテ五百十歳ニシテ平均其年齡ノ八倍丈ケノ金圓數ヲ有セリ今ヨリ毎年一人ニ付七圓ツ、貯蓄シ五千二百七十圓ノ貯金トナルニハ幾年ヲ經ルヤ
- (3) ニツノ時計アリ甲ハ八時十五分ヲ示シ乙ハ八時四十一分ヲ示ス然ルニ甲ハ九時間毎ニ三分ツ、進ミ乙ハ七時間毎ニ二分ツ、遅ル、ト云フ由テニツノ時計ノ同時刻ヲ指示スルハ幾時後ナルカ
- (4) 東經十八度二十八分ノ地ガ午前九時十三分二十秒ナルル午前二時半ナル地ハ經度幾何ニ在リヤ
- (5) 工兵二十七人ニテ一砦ヲ築カシメバ一週間ヲ要スベシ今其業ヲ始メシニ二日ノ後十一人負傷シ爲メニ其殘兵ニテ殘業ヲ爲サシ

携必者檢受

受檢者必携

メバ尙幾日ヲ要スルカ  
 (6) 桃三十三個ヲ兄弟三人ニ分與スルニ兄ノ所得ノ四倍ハ次子ノ所得ニ等シク次子ノ四倍ハ末子ノ五倍ニ等シカラシメントス然ラバ各幾何ヲ得ルカ  
 右二時三十分ヲ限ル

珠算

(1) 金四万八千七百六十円ヲ所有スル人アリ内左ノ金高ヲ貸附ルルハ幾金幾何  
 金三千七百五十円、八百七十三円七十二錢、二万三千九百円七十八錢、八千五百六十円九十五錢、二十三円八十錢六厘、二千円三十七錢九厘  
 (2) 八十七個三分八厘五毛ト四十六個七分二厘ノ差ニ三百六十個九

受驗者必携

分八厘ヲ加ヘ之ヲ四千三百九十八倍セバ如何  
 (3) 金三十七円六十錢五厘ト八百七十円四十八錢ト二千七百円三十二錢九厘トノ和ヲ五万八千七百分セバ如何  
 但商忽位マデヲ要ス  
 (4) 或人六十九里十三町五十二間ノ所ニ達センニ平均毎日八里二十四町十四間ヅ、歩ミシト云フ此費セシ日數幾何  
 右一時間ヲ限ル

幾何

(1) 一與點ヨリ一與直線ニ會スル諸直線中ノ最短ナル線ハ垂線ナリ其證如何  
 (2) 四邊形ノ任意一邊ハ他ノ三邊ノ和ヨリ小ナリ其證ヲ要ム  
 (3) 矩形ノ對角線ハ其邊上ニ兩端ヲ有スル他ノ直線ヨリ大ナリ其證

受 檢 者 必 携

ヲ要ム

右一時三十分ヲ限ル

簿記科

- (1) 單複兩記式ノ相異ナル要點ヲ示セ
- (2) 複記式元帳諸勘定ノ殘高ハ何ヲ示スカ
- (3) 左ノ取引問題ヲ複記式日記仕譯兩帳簿へ記入スルノ順序方法ヲ示セ

七月一日岩永勝已ヨリ乾酪一斤十六錢替ニテ八千八百斤買入レ

代現金ニテ拂フ

全 二日山田昇へ乾酪一斤十七錢替ニテ七百六十斤賣渡シ全入

仕出五十日限り仕拂ノ手形ヲ受取

全 三日中井恒介へ乾酪一斤十七錢替ニテ二千三百八十五斤ヲ

受 檢 者 必 携

現金ニテ賣渡ス

右一時三十分ヲ限ル

地理科

日本地理

- (1) 本府管内ノ國郡ヲ略圖シ著名ノ山川都邑ヲ記セ
- (2) 東山道及ヒ北海道ノ主ナル物産ヲ舉ケヨ
- (3) 本邦中特ニ一國ヲ成セル海島ヲ舉ケ其所轄ノ府縣名ヲ記セ
- (4) 本邦ノ開化ハ西南ヨリ漸ク東北ニ及ヒシガ如シ其地理ノ關係如何
- (5) 古來二八(太陰曆)ノ暴月ブルツキト稱シ此交殊ニ暴風雨ノ多キハ如何

外國地理

一、西伯利亞鐵道竣工セバ地理上ニ於テ我國ト歐州諸國トノ關係如

受 檢 者 必 携

何ナルベキカ

- 二 歐洲大陸中十大國ノ國名ト首都ヲ記載セヨ
- 三 埃斯太利亞ノ地勢ト著名ナル產物ヲ問フ
- 四 早保土港<sup>ハムベルグ</sup>ノ所在ト獨逸國ノ著名ナル物產ヲ問フ

歴史科

- 一 崇神天皇ノ御政治ヲ問フ
- 二 近古ニ於ケル文學ノ有様ヲ問フ
- 三 足利氏時代ノ外交ノ有様ヲ問フ
- 四 徳川氏時代耶蘇教ノ勢力ヲ問フ
- 五 (1) 中古女流ニシテ才學ニ富メルモノ、名ヲ舉ゲヨ
- (2) 漢學傳來及佛教渡來ノ年代ヲ問フ

博物科

受 檢 者 必 携

- (1) 動物生殖ノ諸法ヲ問フ
  - (2) 昆虫類發育ノ模様ヲ問フ
  - (3) 反藪獸ハ動物學上如何ナル分類ニ屬スルヤ且ツ其特異ノ点ヲ舉ゲヨ
  - (4) 動脈血靜脈血ノ區別及ヒ其生成スル理由ヲ問フ
  - (5) 植物細胞ノ含有物ヲ問フ
  - (6) 葉ノ構造及其作用ヲ問フ
  - (7) 炭酸石灰ヨリナル金石ノ名稱ヲ列舉セヨ
  - (8) 金石中最硬最軟ナルモノヲ問フ
- 物理科
- (-) 疾走スル人力車馬車、瀟車等ヲ卒然留止スルル片ハ其乘者ハ車ノ進行スル方向ニ顛倒スト、其理如何

受 檢 者 必 携

- (一) 玻璃板一板ト絹手巾一トヲ以テ電氣ノ吸引作用ヲ証明スル方法如何
  - (二) 陸上ニテ上グル能ハザル大石モ水中ニテハ容易ニ上グルヲ得ルヲアリ其理如何
  - (三) 光線屈折ノ定律ヲ問フ
  - (四) 水沸騰ヲ始メル後ハ其上如何ニ熱ヲ加フルモ温度一定不變ナリ其加ヘタル熱ハ如何セシカ
- 化學科
- (1) 鹽酸百[グラム]ハ大理石ニ作用シ幾[グラム]ノ瓦斯ヲ生スルカ但シ鹽素ノ化合量ハ 三五五 カルシユーム 四〇、
  - (2) 硬水柔水ノ區別ヲ問フ
  - (5) 鐵ニ幾種アリヤ各種ノ性質ヲ述ブベシ

(4) 王水ノ黄金ヲ溶解スル理ヲ述ベ併セテ其反應ヲ符合ヲ以テ記セ尋常小學校本科正教員

修身科

- (1) 内心ノ制裁トハ如何
- (2) 何故父母ハ其子女ヲ教育スルノ義務アルカ
- (3) 完全ナル友誼トハ如何ナルモノヲ云フカ
- (4) 勅語ニ智能ヲ啓發シトアリ之ヲ詳述スベシ

教育科

- 一 聯合法ヲ説明セヨ
- 二 情育ノ方法ヲ問フ
- 三 教授及ヒ訓練ノ關係ヲ問フ
- 四 觀念ヲ先ニシ表出ヲ後ニスベキ理由ヲ問フ

○第五款 雜

受 檢 者 必 携



五フレデリックフリーベル氏教育法ノ要旨ヲ問フ  
授業法

- (一) 事物分解及事物総合ト如何之ヲ説明セヨ
- (二) 發問ノ性質ヲ記スベシ
- (三) 初メテ入學セル兒童ニ左ノ單語ヲ授クル方法如何  
ハト

(四) 習字科教授ニツキ教師ノ注意諸條ヲ記スベシ  
(五) 東西南北ヲ教授スルノ順序及方法ヲ記スベシ  
管理法

- (一) 幅四間半長五間半高サ一丈ノ單級教場ヲ設ケントス生徒幾人ヲ  
容レ得ベキカ又此平面圖ヲ畫キ黑板ヲ設置スル位置及窓ノ大小  
高低位置ヲモ記載スベシ

受 檢 者 必 携

- (二) 教師用ノ机ノ製法ハ如何其理由ヲモ併セ述ブベシ
- (三) 我國ニテ生徒ニ科シ得ベキ罰ノ種類ヲ舉ゲヨ
- (四) 行狀ノ調査法ハ如何スベキカ

國語科

- (一) 數、餘、氏、蛆、牽牛花、紫陽花、神戸(攝津地名)、近江、尾張、蝦、の訓假字何如
- (二) 左の句の係結もしは誤を見出せ
  - (イ) 山は高しとて貴からず、木ありてこそ貴かりけれ。
  - (ロ) 金銀は眞の寶ならぬ、知識を生涯の重器なるべし。
- (三) 形狀言とは何如なるものを例によりてこれを示せ
- (四) 左の文の傍線の處を解して全文の意を略述せよ  
元暦二年の頃かどよ、大なるふる事ありき、ろの狀常ならず、山くづ  
れて川をうづみ、海かたぶきて陸を浸せり、なぎさ漕ぐ船は、波にた

受 檢 者 必 携

受 檢 者 必 携

いよひ道ゆく駒は、足のたちどを失へり、羽なければ、空へもあがるべからず、龍ならねば雲にのぼらんもかたし、おろれの中に恐るべきはなるなりけりとぞ覺ゆし

作文

學校開校式に貴紳士を招待する書狀

納涼記 平易雅馴なる國文

三百字以上

夫有外諸侯。有内功臣。内功臣之封。不能抗外諸侯。然後足以親戴衛護其内。而折衝禦侮其外。否則功臣亦與諸侯等耳。無戴我之心。而有爭我之意。是織田氏所以被禍也。雖能存外諸侯。而不知斷長補短。使勢力略敵。又不知大封宗族。據其扼塞。犬牙相制。以鎮壓其邪心。是豐臣氏所以絕嗣也。

李晟克復長安。露布至行在。曰。臣已肅清宮禁。祇謁寢園。鐘簣不移。廟

受 檢 者 必 携

貌如故。上覽之。泣曰。天生李晟。以爲社稷。非爲朕也。

假名交リ文ニ直シテ且ツ講義セヨ

作文

事ニ臨ミ荷モスヘカラザルノ説 二百五十字ヨリ三百字マデ

算術科

筆算

尋常本科正教員筆算

(1) 連續三數ノ最小數ガ偶數ナレバ其和ノ三ノ倍數又奇數ナレバ六ノ倍數ナルヲ示セ

(2) 兩缺時計アリ其各々等價ノ鎖ヲ附ケシニ甲ハ八十円乙ハ六十円ノ價額トナレリ甲時計ハ一鎖ノ價ノ二倍ヨリ五円多シ各時計價如何

○第五款 雜

携 必 者 檢 受

- (3) 一父アリ三子ニ資産ヲ分配スルニ長子ニ其二分ノ一次子ニ其残りノ五分ノ三ヲ與ヘ末子ニハ次子ヨリ百五十円ノ金額丈ケ少ナク與ヘタリ各子所得ノ資産金額如何
- (4) 或ル貨物ヲ二里二十三町廿五間ノ所ニ運送セシニ其運賃三円二十七錢五厘ナリ今同シ貨物ヲ七里三十四町十五間アル所ヘ運送センニハ幾何ノ賃錢ヲ要スルカ
- (5) 道路修繕ノ爲メ人夫十二人ヲ雇ヒ毎日八時ツ、働カシメ二十五日ニシテ其三分ノ二ヲ成スト云フ今人夫八十八人ヲ増シテ毎日ノ働キヲ二時間ツ、減シナバ殘業ヲ幾日ニテ果スベキカ
- (6) 金十円五十錢ヲ甲乙丙ノ三人ニ配分スルニ甲ト乙トハ六ト五トノ如ク丙ハ乙ヨリ七十五錢少シト云フ各幾何
- (7) 一円ニ付上米ハ一斗二升中米ハ一斗五升下米ハ一斗六升五合ナ

携 必 者 檢 受

- ルル三種合セテ二十二石ノ價百五十円トナサンニハ各幾何ヲ混合スベキカ
- (8) 七百八十六ノ立方根ハ三十二ノ平方根ヨリ大ナルヲ幾何但毛位マデ算スベシ

右三時間ヲ限ル

珠算

- (1) 商人アリ米五百八十石三斗ヲ所有セリ然ルニ内左ノ米高ヲ賣却セバ殘米幾何ナルヤ  
米二十三石七斗六升、三百五十七石八升五合、四石八斗七升六合、四十八石九升八合、二十七石九升、五石七斗六升五合、
- (2) 五十九個三分七厘ト三百六十個五分六厘ノ和ヲ二千七百八十五倍セバ如何

携 必 者 檢 受

(3) 金九百九十五円ヨリ三百八十三円七十二錢六厘ヲ減シ四千五百六十分セバ如何

但シ商毛位マデヲ要ス

(4) 東西兩地ヨリ二人同時ニ相向テ發足シ東人ハ毎日平均十二里三十町十八間三尺ツ、進ミ西人ハ毎日ノ歩行平均東人ヨリ二里三十町三十八間四尺少ナシ而シテ五日ニテ相出會セリト云フ由テ兩地ノ距離ヲ述ム

右一時間ヲ限ル

地理科

日本地理

(一) 繁華ナル都邑ノ多ク海濱若クハ河口等ニ在ル理由如何  
(二) 本土ヲ貫通セル大山脈ノ其ノ氣候上ニ及ホス影響如何

携 必 者 檢 受

(三) 本府管内ヲ略圖シ各郡衙ノ所在地ヲ記セ

(四) 畿内ノ氣候、物産、人情、風俗、生業ノ概要ヲ記セ

(五) 本邦中海ニ接セサル國ヲ舉ケ其所轄ノ府縣名ヲ記セ

外國地理

一 赤道ヲ距ルニ從テ晝夜長短ノ差異甚シキ所以ハ如何

二 上海ト我國貿易トノ關係何如

三 西比利亞地方ノ極メテ寒冷ナルハ主トシテ何ニ原因スル乎

四 南北亞米利加ノ主要ナル國々ト其首都トヲ記セ

五 魯西亞及土耳其ト他ノ歐洲諸國ト其政体ヲ異ニスル点何如及歐洲ノ五大強國トハ何如

歴史科

(1) 上古衣食住ノ有様ヲ問フ

受 檢 者 必 携

- (2) 奈良朝ノ時代宗教ノ有様ヲ問フ
- (3) 徳川氏天下ヲ治ムルノ政略ヲ問フ
- (4) 鳥羽伏見ノ戰ヲ記セ
- (5) 左ノ解釋ヲ問フ

姓イナ 流鏑矢 租庸調 勘解由使

躰操科

- (1) 第二徒手體操
- (2) 第一啞鈴體操
- (3) 矯正術解説法
- (4) 柔軟體操解説法

尋常小學校本科准教員

修身科

受 檢 者 必 携

- (1) 何故父母ハ其子女ヲ教育スルノ義務アルカ
- (2) 清潔ハ人ノ義務ナル所以ヲ述ベヨ
- (3) 兄弟ニ友ニトハ如何ナル義ナルカ
- (4) 勅語中公益ヲ擴トハ如何ナル義ナルカ

教育科

授業法

- 一 教授ノ目的ヲ問フ
- 二 特殊ヨリ普通ニ進ムベシトハ如何例ヲ舉ケテ之レヲ説明セヨ
- 三 級決教可各唱ノ性質及其用ユルニ當リテノ順序ヲ問フ
- 四 左ノ轉呼音ヲ教授スルノ方法ヲ記スベシ  
ホホヅキ
- 五 左ノ算法ヲ實物ニテ教授スルノ順序及ヒ方法ヲ記スベシ

(3+2+5)-(4+2)=4

管理法

- (一) 生徒ノ机卓ハ壹人掛ケテ善シトスルカ二人掛テ善シトスルカ之レヲ詳論スベシ
- (二) 掛圖類中修身畫ノ撰擇ニ關スル心得ヲ述ベヨ
- (三) 机、壁、腰板、ノ色ハ如何ナルモノヲ善シトスルカ且其色ヲ撰ビタル理由ヲ述ブベシ
- (四) 我國ニテ生徒ニ科シ得ベキ罰ノ種類ヲ舉ケヨ

國語科

- (1) 汝、水、庭、鯛、稗、澤、辻、豕、岡、猶ノ訓假字何如
- (2) 左ノ音便假字ノ誤を正セ  
つゐたち(朔日)    ひひか    (六日)    こうもり(蝙蝠)

受 檢 者 必 携

- へうし (柏子)    ちやうづ(手水)    こおぢ (柑子)
- もをで (詣)    こうがる(筭)    やをか (八日)
- もをす (申)

(3) 左の傍線の處を解きて全文の大意を略述せよ

何にても、はやくなさんと思ふ事は、静に心とゞめて、すこし暇い  
るとも、物のくまぐま、能く思ひ廻らしてなすべし、物か、んとす  
るにも、急ぐ折には静に心とゞめて物すべし、さるは、書き損じも  
し、落しもしては、書き改めなどする程に、なまなかに、おろくなる  
 ものなればなり

作文

恩師に炎暑見舞の書狀

百五十字以上

右二時間を限る

携 必 者 檢 受

- (1) 宋ノ袁粲蕭道成ヲ誅セント謀ル、褚淵其謀ヲ以テ道成ニ告ク、粲ガ父子俱ニ石頭城ニ殺サル、百姓之レヲ哀ミ曰ク、憐ムベシ石頭城、寧ロ袁粲ガ死ヲ爲スル、褚淵ノ生ヲ作サント
- (2) 張士遜補フ所ナシ、諫官ノ韓琦上疏シテ曰ク、政事府ハ豈養病坊ナランヤ、是ニ於キテ士遜致仕ス、呂夷簡復相タリ、韓琦范仲淹ヲ用キテ邊ノ帥ト爲ス、仲淹嘗テ兼テ延州ニ知タリ、夏人相戒テ曰ク、延州ヲ以テ意ト爲ス、ナカレ、小范老子ハ、胷中ニ自ラ數萬ノ甲兵アリ、大范老子ノ欺クベキニ比セズト、邊人之レガ語ヲ爲シテ曰ク、軍中ニ一韓アレバ、西賊之ヲ聞テ心膽寒シ、軍中ニ一范アレバ、西賊之レヲ聞テ膽ヲ驚破スト、(大范トハ范雍ト云フ人ヲ指ス)
- 右ノ講義セヨ
- 作 文

竹ノ説  
漢字交リ

二百字以上二百五十字マデ

數學科

筆算

- (1) 一數ニ其二十倍ヲ加フレバ七ノ倍數ナルヲ示セ
- (2) 周圍三百二十間ノ池アリ甲ハ毎分時六十間乙ハ百間ノ速ヲ以テ同處ヨリ同方向ニ廻リ始ムレバ幾分時ノ後相會フヤ
- (3)  $(46\frac{13}{18} - 32\frac{5}{6}) \times (11 - 4\frac{2}{3})$ .
- (4) 四十八、百四十四、三十六、ノ各數ニテ除シ三殘ルベキ最小數如何
- (5) 或人借金ノ四分ノ一ニ當ル金ヲ所有セシ時ニ三十六円ヲ受取リタレバ借金ヲ拂ヒシニ尙ホ金十五円ヲ所有スト云フ由テ借金ノ高ヲ問フ

第五款 雜

携 必 者 檢 受

(6) 高サ十一尺五寸ノ石塔カ地平ニ移ル影ノ長サ十七尺四寸ナリ同  
時ニ於テ百九十一尺一寸ノ影ヲ地平ニ移ス樹木アリ其高サ如何  
右二時三十分ヲ限ル

珠算

- (1) 商人アリ米五百八十石三斗ヲ所有セリ然ルニ内左ノ米高ヲ賣却  
セバ殘米幾何ナルヤ  
米二十三石七斗六升。三百五十七石八升五合。四石八斗七升六合。四  
十八石九升八合。二十七石九升。五石七斗六升五合。
- (2) 五十九個三分七厘ト三百六十個五分六厘ノ和ヲ二千七百八十五  
倍セバ如何
- (3) 金九百五十五円ヨリ三百八十三円七十二錢六厘ヲ減シ四千五百  
六十分セバ如何

携 必 者 檢 受

但シ商毛位マデヲ要ス

- (4) 東西兩地ヨリ二人同時ニ相向テ發足シ東人ハ毎日平均十二里三  
十町十八間三尺ツ、進ミ西人ハ毎日ノ歩行平均東人ヨリ二里三  
十町三十八間四尺少ナシ而シテ五日ニテ相出會セリト云フ由テ  
兩地ノ距離ヲ求ム  
右一時間ヲ限ル

地理科

- (一) 本府管内ヲ畧圖シ各郡衙ノ所在地ヲ記セ
- (二) 茶、酒、煙草、漆器、生絲、織物ノ有名ナル産地ヲ舉ケヨ
- (三) 本邦中ノ山國及ヒ島國ヲ舉ケヨ
- (四) 本邦ニ長流ナキハ何故ナリヤ
- (五) 日本海岸ハ大平洋岸トハ其緯度同シテ其氣候同シカラザル理由





雜日大終日燭位樂譜 全一冊

萬國神韻圖 全一冊

日本神韻圖 全一冊

谷曆字韻 全三冊

用文韻 全三冊

女子神韻圖 全八冊

女子神韻圖 全八冊

女子神韻圖 全八冊

女子神韻圖 全八冊

女子神韻圖 全八冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊

天師學人其韻聖 全一冊



